

[第1号議案]

1-1. 2017年度事業報告

1. 概況：重点活動
 2. 会員の異動状況
 3. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）
 4. 実施事業1：調査研究活動（定款第4条1項1号および2号）
 5. 実施事業2：人材育成（定款第4条1項4号）
 6. 実施事業3：学術講習会の開催（定款第4条1項1号および2号）
 7. 実施事業4：会誌の刊行（定款第4条1項1号および2号）
 8. 実施事業5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第4条1項1号および2号）
 9. 実施事業6：標準化活動（定款第4条1項3号）
 10. 実施事業7：国際活動（定款第4条1項5号および2号）
 11. その他：関連学協会との連絡および協力（定款4条1項6号）
 12. 法人運営
- 付1. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）
- 付2. 研究会および研究発表・学術講習会等一覧
- 付3. 刊行物（会誌・論文誌・図書等）一覧
- 付4. 国際会議一覧
- 付5. 表彰等
- その他・附属明細書

2017 年度 事業報告

1. 概況および重点活動

IoT (Internet of Things) , ビッグデータ, 人工知能(AI)が社会の注目を集め, これからの未来を大きく変えようとする現在, 本会の果たすべき役割はますます広がっている。これまで学会の抜本的改革を継続的に推進してきたが, 正会員の減少傾向に歯止めをかけるには至らず, 個人会員数は減少となった。引き続き会員数減の要因分析と検討を進めるとともに, 新たな活動のための中長期計画の具体化・学会システムの刷新ロードマップの策定などが進みつつある。調査研究活動, 学会誌の発行, 論文誌編集活動, 学術講習会の開催, 標準化活動においても, 新たな取り組みに挑戦しつつ, 例年通りの成果を上げている。財務的には, 正会員費改定に加え種々のコスト削減の施策を行い, 今年度黒字を達成した。また, 会員サービスを中心とするこれまでの学会の在り方を補完する, 新たな取り組みの検討を開始した。社会に対して本会の専門性を還元するため, イベント企画を推進し本会会員だけでなく一般の方々に開けた活動とし ICT 技術の価値を発信する。ICT 技術の使い手である他学会や企業との連携を実現し, 技術に対する健全なフィードバックを得る。本会是通过これらを通じて社会から信頼される ICT 技術のリーダーシップを確立していきたい。この活動を IPSJ イニシアティブと呼んで, 長期戦略担当理事を中心に関連する委員会の協力を得て議論を進めている。

特筆すべき改革や成果としては, 下記のものあげられる。

- 継続的な学会運営と財務基盤の安定のために前年度 10 月の臨時総会決議により 27 年間据え置かれてきた正会員年会費を値上げした。また, ジュニア会員制度を周知する為に, 支部のジュニア会員向けイベント支援やパンフレット改定と新たな団体への配布, ジュニア会員募集期間延長等の施策により, ジュニア会員制度創設以来最高の 782 名を達成した。
- 実務家・IT エンジニア向け新サービスである認定情報技術者制度 (CITP) において, IFIP IP3 の審査を受け認定された (認定日: 2018 年 2 月 26 日)。認定情報技術者は新たに 768 名誕生し, 累計で 7,405 名を認定した。また新たに 1 社の社内資格制度を認定し, 認定した企業は累計で 8 社となった。
(注: IP3: International Professional Practice Partnership)
- 長期戦略理事が中心となり, 本会の新たな取り組みである IPSJ イニシアティブに向けて, その候補キーワードの議論を開始し, 学会のハブ機能強化については推進する計画案を検討した。
- 女性会員増への取り組みとして, 女性会員の活躍を支援する Info-WorkPlace 委員会において, 女性会員のネットワーク構築のための Web サイト立ち上げ, SNS での情報発信, メーリングリストの整備をすすめた。また, 関連イベントへの積極的な共催参加, 従来の全国大会に加え FIT2017 での自主イベント企画などを通じ広報と会員の意識向上に努めた。
- 新世代企画委員会における若手の活発な取り組みを続け, ニコニコ動画との連携, 全国大会での「IPSJ-ONE」, 学会イベント受付のオンライン化, 勉強会フォーラム等の取り組みを推進した。また, ジュニア会員向けサービスの企画を開始した。
- 学会情報システムの刷新に向けた現状調査を実施するとともに, イベント・シンポジウム・支部・研究会のシステムの統合も含めたロードマップを策定した。現行システムの集約だけでなく業務フロー自体の見直し/簡略化を進め, 新規システムの構築の具体的なスケジュールを策定し, システム改版作業を進めている。2016 年度に策定したロードマップに従い, 2017 年度は学会システムの開発スケジュール立案と開発先選定を行った。2018 年度は稼働開始と移行作業に充てる予定である。

- 本会の専門性を社会に還元する活動の一環として、文部科学省委託事業「先導的・大学改革推進委託事業（超スマート社会における情報教育の在り方に関する調査研究）」ならびに、大阪大学からの再委託事業として文部科学省委託事業「情報学的アプローチによる「情報科」大学入学者選抜における評価手法の研究開発」の一部を受託した。

この他にも、グローバル化を目指した取り組み、査読システムのリニューアル、電子図書館のサイトライセンスサービス、国の政策や方針に対する活発なパブリックコメントの発信、国内外学会との連携などで多くの成果が出始めている。

また、今年度内閣府への申請手続きを進めていた公益目的支出計画完了予定年月日変更申請について認可された（従前 2018 年 3 月 31 日から 2020 年 3 月 31 日に変更）。

1.1 学会運営体制の充実および財政基盤の強化

急激に変化する環境の中で、学会を安定的に運営しつつ、これを発展させるために、学会としてのトラディショナルな活動は今までもおり大切にしつつ、新しいアイデアを積極的に取り入れて、学会を柔軟に改革できる運営体制の整備として下記の施策を進めた。

- ① 学会価値の向上による会員増と財政基盤の強化に取り組む。学生会員 2,700 名とジュニア会員 1,000 名を目指し、支部における若手会員向け新規イベント企画や高専への学会紹介などを行い、結果前年度、前々年度と 500 名強の減少幅を約 200 名の減少にまで縮小することができた。
- ② 学会の新ビジョンの検討を進めた。具体的には、IPJS イニシアティブとして採択すべきキーワードを国内外の動向情勢を俯瞰し収集し、学会としての見識をまとめた。
- ③ 会員サービスの向上、運用コストの削減、セキュリティ対策の強化等を目標に学会システムのリニューアルについては、2018 年度内の運用開始を目指し、2017 年度に開発に着手した。
- ④ 学会システム刷新にあわせ、事務局の複雑な業務フローの簡素化を検討し、会員向けマイページでリアルタイム決済を行うなど学会システムによる自動化を可能にする目途がたった。
- ⑤ 長期戦略理事を中心に中長期戦略を維持発展させ、産学マッチングを容易にする学会ハブ機能の強化、学会のビジネスモデル転換など諸課題に向けた方策を調査研究/企画政策委員会で検討した。
- ⑥ 新世代企画委員会活動では、会誌とも連携し「IPJS 先生、質問です（仮題）」コーナーの具体化等若手向け活動を推進した。
- ⑦ アドバイザリーボードからの「情報処理学会が目指すところの明確化」提言をうけ、学術で先端をリードしていくイニシアティブ活動、学界/産業界ハブ機能となるべく、長期戦略で検討した。
- ⑧ 会員数の増加を図る為にジュニア会員向けサービス拡充や入会期間延長などを行った。

1.2 学生・若手研究者育成のための活動および体制強化

- ① 新世代理事を中心とする横串の組織「新世代企画委員会」活動を推進し、新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込む活動を推進した。
- ② 小学生から大学学部 3 年生までがオープンに入会申込できる「ジュニア会員制度」を推進し、若い世代の入会を促進した。また、「Exciting Coding! Junior 2017」など、数々のジュニア会員向けイベントを開催・共催した。2018 年 3 月末現在ジュニア会員数は 782 名である。
- ③ 研究会や支部などの協力も得て、学生や若手研究者のためのイベントを企画開催した。また、学生や若手を対象とした賞を授与した。

1.3 調査研究活動ならびに提言活動の推進

- ① 学会のコアの活動として、研究会による諸活動を推進した。コンピュータサイエンス領域、情報環境領域、メディア知能情報領域の 3 領域に分けて、領域委員会を 3 回ずつ開催し、研究会間での情報交換

を促した。

- ② 調査研究運営委員会、政策提言委員会、教育委員会が連携し、国の政策および方針に関する「高大接続改革の進捗状況」、「教育職員免許法施行規則および免許状更新講習規則の一部を改正する省令案」などに関するパブリックコメント募集に対して、各専門の研究分野と連携して積極的な提言活動を行った。
- ③ 個々の研究会活動を超えて、領域または調査研究全体による活動を支援するために、調査研究活動の積立資金よりプロジェクト（期間2016年11月1日～2017年10月31日）を募集し、国際会議支援、女性研究者支援、若手研究者支援などの6件（総額92万円）を採択し支援することとした。
- ④ 情報保障の導入を支援するため、アクセシビリティ研究会で実施している文字通訳や手話通訳に対して、調査研究活動の積立資金より50万円を補助した。
- ⑤ 複数の研究会の共催による「DICOMOシンポジウム」、「インタラクション」などを開催した。

1.4 グローバル化

- ① 英文論文誌 Journal of Information Processing（以下、JIP）のインパクトファクタ取得について、諸対応を検討した。JIP 編集委員会で、インパクトファクタを持つ他論文誌の状況を共有するとともに、ブレインストーミングを行い今後の戦略について整理した。
- ② 国際的に広く使われている商用査読管理システム ScholarOne Manuscripts の運用を行い、JIP を中心に査読プロセスをグローバルスタンダードに合致させると同時に、特集号などでの編集会議の自由度を確保するための利用ノウハウの蓄積を進めた。
- ③ 研究会活動を中心に、国際会議の主催や共催を推進した。情報環境領域プロジェクトとして、ACM CHI への参加費・旅費の援助を行った。
- ④ IEEE や ACM のようなグローバルトップの国際学会との連携（学会員向けサービス等）に加え、若手向け表彰として「IPSJ/IEEE-CS Young Computer Researcher Award」を新設した。
- ⑤ アジア地域の国々との連携の機会を検討し、台湾師範大学でコンピュータと教育に関する研究発表会を行った。
- ⑥ アジアの関連学会である中国 CCF (China Computer Federation) , 韓国 KIISE (Korean Institute of Information Scientists and Engineers) との中長期的な交流に向けて意見交換や相互訪問を行った。国際会議の共催について検討を進めている。

1.5 実務家・ITエンジニア向け活動の強化

- ① 高度IT人材の資格制度である「認定情報技術者 (Certified IT Professional : 略称 CITP) 制度」について、国際的に通用する資格とするために、IFIP IP3の審査を受け認定された（認定日：2018年2月26日）。個人認証においては、資格の更新審査を開始し、2013年度に認定したCITPのうち、8名の資格を更新した。本年度の新たな登録者は768名、新たな認定企業は1社で、年度末時点の累計で、認定したCITPは7,405名、認定企業8社となった。
- ② ソフトウェアジャパン、デジタルプラクティス、連続セミナー・短期集中セミナー、ITフォーラムなど、各種の実務家・ITエンジニア向け活動を通じて集客に貢献した。
- ③ 情報処理推進機構 (IPA) , 情報サービス産業協会 (JISA) , 日本情報システム・ユーザー協会 (JUAS) , 電子情報技術産業協会 (JEITA) , 科学技術振興機構 (JST) , 先端 IT 活用推進コンソーシアム (AITC) などの実務家・ITエンジニアを対象とする団体との連携をさらに深め、共同イベントの開催などを推進した。

1.6 教育活動の充実

初等中等教育，専門学校そして大学などにおける情報教育，および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて，以下の施策を実施した。

- ① J17-CS, J17-IS, J17-CE, J17-SE, J17-IT の情報専門学科用カリキュラム標準を策定した。併せて，一般情報教育用カリキュラム標準 J17-GE も策定した。
- ② 大阪大学から再委託され実施している「情報学的アプローチによる「情報科」大学入学者選抜における評価手法の研究開発」について以下の事を行った。
 - ・「情報科」入試実施における情報科での「思考力・判断力・表現力」評価手法の検討
 - ・「知識・技能」＋「思考力・判断力・表現力」を評価するための本格的 CBT 試行システムの構築
 - ・「情報科」大学入学者選抜に関するシンポジウムや大会セッションなどの広報活動
- ③ アクレディテーション活動（教育機関における技術者教育プログラムの認定，JABEE からの委託，国際水準を目指して教育改善を推進しソウル協定の活動に協力）を継続した。
- ④ 高校教科「情報」の教員免許更新講習会の開催および教育シンポジウム・ワークショップ・コンテストの運営と後援を実施した。
- ⑤ 情報プレースメントテスト（IPTTS : Information Placement Test System）の開発と実施に，高大接続の一環として協力した。プレテストの実施，結果の分析，本番用のテスト問題作成と e-learning プラットフォームへの実装を行った。

1.7 会員サービスおよび広報の充実

- ① コンテンツの新しいサービス提供形態として，従来ダウンロードが必要だった刊行物のhtml提供を開始，デジタルプラクティスではアクセス数が4倍以上となった。
- ② 2014年度に提携したドワンゴ社のニコニコ動画配信は継続し，Info-workplace委員会でのオンライン読書会放送など利用を拡大した。
- ③ 研究会の非会員参加者のトラッキングや広報のために，イベント・シンポジウム等申込サイトの外部サービス利用をユビキタスコンピューティングシステム研究会などで検討した。
- ④ 学会システム開発を優先するため，最新 CMS（Contents Management System）を採用した研究会・支部システム用共通基盤の試行は 2018 年度以降に延期した。

1.8 学会システムの移行

業務フロー，制度の見直しによる業務の簡略化（開発費，運用費軽減，人件費節約，マイページ作成によるサービスの向上）および，セキュリティ強化も目指した。また，新規システム構築の具体的なスケジュールを策定し，クラウド型（SaaS, ASP型）の新学会情報システムを選定し，2018年度のサービス開始を目標に，入会・マイページ・各種申込・各種決済・会員管理・研究会管理・行事管理・集計・台帳出力等の機能について開発を進めている。各支部と協議し，支部が運営するWebサイトに関して，第一段階としてISPの統一とセキュリティ強化を行い，第二段階で共通プラットフォームとCMSの構築を行う等，8支部サイトの統合化を検討するという方針で合意した。

2. 会員の異動状況

会員種別	会員数		増減数 ①-②	備考：2017年度の異動内訳				
	① 2017 年度末	② 2016 年度末		入会		退会		資格 喪失
名誉会員	38	36	2	3	正会員から異動	1		
正会員	15,165	15,397	-232	523 759	学生会員から異動	1,032 3	名誉会員に異動	479
学生会員	2,363	2,544	-181	1,364 26	ジュニアから異動	770 759 0	正会員に異動 ジュニアに異動	42
ジュニア会員	782	596	186	661 0	学生からの異動	449 26	学生会員に異動	
個人会員 計	18,348	18,573	-225	3,336		3,040		521
賛助会員 (口数)	240 (572)	214 (527)	26 (45)	38 (57)		12 (12)		

*2017年度期末正会員数には終身会員 594 名を含む。

3. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）

総会、理事会をはじめ、法人運営、調査研究活動、人材育成活動、事業活動、機関誌／出版活動、標準化活動、国際活動に関する各種委員会を開催した。また、理事会をはじめ各種委員会資料のペーパーレス化を推進した。なお、総会においては普段交流の少ない賛助会員にも学会活動に親しんでもらい、交流を深めることを目的として講演会と交流会を実施、本会コンピュータ博物館の歴史遺産の一つである「リレー式計算機AL-1型」の動態展示も行った。詳細は付録1（p.19～p.33）に掲載する。

4. 実施事業1：調査研究活動（定款第4条1項1号および2号）

4.1 研究発表会、シンポジウム・講習会等 [所掌：調査研究運営委員会および各領域委員会]

40研究会、3研究グループにより活動し、研究発表会（156回）およびシンポジウム等（24回）を開催した。詳細は付録2（p.34～p.40）に掲載する。

※前年度参考：40研究会、3研究グループ、研究発表会160回、シンポジウム21回

[1] コンピュータサイエンス領域

10研究会により、研究発表会（40回）、シンポジウム等（9回）を行った。それぞれの研究会が積極的な活動を行っているが、中でも特記事項は次の通りである。

- ① データベースシステム(DBS)研究会が電子情報通信学会・日本データベース学会と共催で「第10回 Web とデータベースに関するフォーラム (WebDB Forum 2017) (2017年9月18日～20日、お茶の水女子大学)」を開催した。参加者は273名で、企業スポンサーは23社と盛況であった。

- ② 優秀な若手会員を顕彰するため、領域共通の積立金を活用して2017年度コンピュータサイエンス領域奨励賞を17名に授与した。

[2] 情報環境領域

17研究会により、研究発表会（66回）、シンポジウム等（9回）を行った。特記事項は次の通りである。

- ① 領域全体の活動として、領域共通の積立金を活用したプロジェクトを募集し、学生プログラムコンテスト、国際会議支援、女性研究者支援などの6件のプロジェクト（総額92万円）を支援することとした。前年度採用したプロジェクトの一部は成果報告を行い、領域の活性化に貢献したことを確認した。
- ② 10研究会*が合同で、ネットワークに関する研究分野を対象に、研究者間の深いディスカッションと交流の場となるよう合宿形式による「DICOM02017シンポジウム（2017年6月28日～30日、定山溪万世閣ホテルミリオーネ）」を開催した。参加者は419名であった。

※マルチメディア通信と分散処理（DPS）、グループウェアとネットワークサービス（GN）、モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム（MBL）、コンピュータセキュリティ（CSEC）、高度交通システムとスマートコミュニティ（ITS）、ユビキタスコンピューティングシステム（UBI）、インターネットと運用技術（IOT）、コンシューマ・デバイス&システム（CDS）、セキュリティ心理学とトラスト（SPT）、デジタルコンテンツクリエイション（DCC）各研究会

- ③ 5研究会*が合同で「インタラクション2018シンポジウム（2018年3月5日～7日、学術総合センター）」を開催した。実システムのデモを通じて発表者と参加者との双方向的なコミュニケーションを重視したインタラクティブ発表などは毎年好評を博し、今回も700名を超える参加者を得て盛会であった。ジュニア会員は参加費無料とすることで会員増にも貢献した。

※ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI）、グループウェアとネットワークサービス（GN）、ユビキタスコンピューティングシステム（UBI）、デジタルコンテンツクリエイション（DCC）、エンタテインメントコンピューティング（EC）各研究会

[3] メディア知能情報領域

12研究会、3研究グループにより、研究発表会（50回）、シンポジウム等（6回）を行った。

- ① コンピュータビジョンとイメージメディア（CVIM）研究会が電子情報通信学会パターン認識・メディア理解（PRMU）研究会と共催で「第20回画像の認識・理解シンポジウム（MIRU2017）（2017年8月7日～10日、広島国際会議場）」を開催した。電子情報通信学会と交代で幹事学会を務めており、今回は本会が幹事だったが、参加者663名と盛況であった。
- ② 複数研究会でニコニコ生放送等にて研究発表会の動画中継を行った。
- ③ エンタテインメントシンポジウム論文集にビデオ動画や音素材等のマルチメディアコンテンツを掲載した。

4.2 その他

(1) 表彰

優れた研究発表および業績等に対して、山下記念研究賞、業績賞、マイクロソフト情報学研究賞、若手奨励賞を贈呈した。付録5（p. 49～p. 52）に掲載する。

5. 実施事業2：人材育成（定款第4条1項4号）

初等中等教育を含む情報教育、および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて、以下の施策を実施した。

5.1 情報教育カリキュラムの策定 [所掌：情報処理教育委員会]

(1) 情報専門学科カリキュラム標準（J17）のフォローアップ

J17 の中核となる J17-CS, J17-IS, J17-CE, J17-SE, J17-IT の情報専門学科用カリキュラム標準を策定して公表した。併せて、一般情報教育用カリキュラム標準 J17-GE も策定し公表した。なお、この 10 年の間に情報分野で特に注目を集めてきているサイバーセキュリティとデータサイエンスに関して、その知識項目・スキル項目を抽出して、一般教育／専門基礎／専門に分類した側面別カリキュラム標準も用意した。そして、各カリキュラム標準は、この側面別カリキュラム標準の項目への参照を付して、相互にカバーするものの比較ができるように作られている。

(2) 次期カリキュラム標準 J17 の策定にむけた作業

第 80 回全国大会イベント「カリキュラム標準 J17 と情報教育」などを通じて、J17 カリキュラムの普及を行った。

(3) 初中等教育での情報教育支援

国の情報教育の方向および内容に関して、他学協会とも連携して意見書や試作学習指導要領の作成公表などの提言を行った。高専プロコン交流育成協会（NAPROCK）との連携により、高専プロコン連携シンポジウムの実施を行った。また、初中等教育現場の情報分野教員の養成支援、教材開発や出張授業などを通じて、教育現場支援をさらに推進した。文科省からの「講師紹介窓口」としての紹介・受付開始・対応ガイドラインの策定をした。

5.2 アクレディテーション（技術者教育プログラムの認定） [所掌：情報処理教育委員会]

アクレディテーションによる大学・大学院専門教育の質的向上の推進のため、日本技術者教育認定機構（JABEE）委託の認定評価を継続した。関連して、認定校・受審予定校のコミュニティの育成、専門職大学院認証評価などの活動支援を行った。また、JABEE に協力して情報専門系課程教育の質保証に努め、ソウル協定による国際水準を目指して教育改善を推進した。JABEE 審査 4 件を担当した。JABEE の審査基準の変更に委員を派遣し、審査基準の個別基準の変更作業を行った。JABEE のソウル協定の活動に、委員会として貢献した。

5.3 認定情報技術者制度 [所掌：資格制度運営委員会、個人認証審査委員会、企業認証審査委員会]

認定情報技術者（CITP）を国際的に通用する資格とするために、IFIP IP3 の審査を受け認定された（認定日：2018 年 2 月 26 日）された。個人認証においては、資格の更新審査を開始し、2013 年度に認定した CITP のうち、8 名の資格を更新した。なお、他に 7 名が企業認定の枠組みに移って資格更新した。本年度の新たな登録者は 768 名、年度末時点の累計で認定した企業は 8 社、認定した CITP は 7,405 名となった。また、CITP ホルダーにより第 17～20 回の CITP コミュニティ本会議が開催され、10 月には、本会東北支部の協賛を得て石巻シンポジウムを開催し、AI を活用した社会価値の創造事例の講演やシビックテック・ワークショップなどを行った。

5.4 教員免許更新講習の開催 [所掌：情報処理教育委員会]

2014 年度より実施している高校の教科「情報」に関する教員免許更新講習を引き続き実施した。東京地区（東京大学）と関西地区（大阪電気通信大学）で開催した。本会が講習を実施することは、「情報」に特化した更新講習を実現し、高校の情報科教員の知識の更新（アップデート）に役立つものであった。

5.5 その他 [所掌：情報処理教育委員会]

(1) 教育シンポジウムならびにコンテストの運営・後援等

教育に関するシンポジウムならびにコンテストを企画運営した。高校教科「情報」に関するシンポジ

ウムを東京で開催した。また、若い世代への本会のプレゼンス向上を目指して、大学生、高校生等を対象とするコンテストの後援（表彰活動）等を推進した。

(2) 大学入試科目に「情報」を導入するための活動

各大学における入試科目に「情報」の採用を推進する情報入試委員会および情報入試研究会、「情報」を入試科目として採用している大学、「情報」の教員等と緊密に連携して、大学情報入試の模擬試験を実施した。大阪大学から再委託され実施している「情報学的アプローチによる「情報科」大学入学者選抜における評価手法の研究開発」を継続し、以下のことを行った。

- ・「情報科」入試実施における評価手法の検討としては、次期学習指導要領を加味した知識体系の整理、情報科での「思考力・判断力・表現力」評価手法の検討を継続して行ない、模擬試験の策問、模擬試験の実施の支援、模擬試験の採点を行った。知識体系の整理に関連して、情報教育の参照基準の策定を進めた。
- ・「情報科」CBT システム化に関する研究としては、「知識・技能」＋「思考力・判断力・表現力」を評価するための本格的CBT 試行システムの構築を行なった。また、そのシステムのための試験問題の作成を行った。
- ・広報活動としては、「情報科」大学入学者選抜に関するシンポジウムや全国大会およびFIT のセッションなどのイベントを企画した。
- ・情報プレースメントテスト（IPTS：Information Placement Test System）の開発と実施に、高大接続の一環として協力する。予備テストの実施を行い、そこで得られた情報、テスト結果を分析した上で、年度の後半に本番テスト問題の作成と適当なプラットフォームへの実装を行った。

(3) 学会誌への教育関連記事の掲載

会員の情報教育への関心を高め、初中等教育現場関係者の学会活動への参加を促すために、学会誌に「ぺた語義」などの教育関連連載記事を企画・編集した。

(4) 表彰、その他

- ① 優れた情報教育の実践等を顕彰するため、優秀教育賞・教材賞を贈呈した。
- ② 教材、講義素材、講義資料などのデジタルアーカイブ実現に向けて調査・検討を行った。
- ③ 教育関連の事業活動の成果を学会収益に結びつける仕組みや寄付の募集を検討した。
- ④ 国際会議「World Conference on Computers in Education (WCCE2021)」の日本開催が決定した。

6. 実施事業3：学術講習会の開催（定款第4条1項1号および2号）

※各開催状況の詳細は付録2（p.40～p.43）に掲載する。

6.1 全国大会／FIT

(1) 第80回全国大会 [所掌：全国大会組織委員会]

第80全国大会を2018年3月13～15日に早稲田大学西早稲田キャンパスで開催した。本大会では、前回と同様に通常の一般セッション、学生セッションに加えて大会招待講演企画、大会イベント企画、展示会などのイベントを開催し、「大会イベント企画限定聴講参加（参加費無料）」の参加枠を設けた。

また、昨年に引き続き、ニコニコ動画によるメイン会場のライブ配信（来場者数：4.7万人）や、「IPSJ-ONE」, 「IT情報系 キャリア研究セッション」（参加者延110名、出展16社）、託児所の設置、聴覚障害者向け情報保障（音声認識ツール、手話通訳）を行った。新たな取り組みとして2020年に小学校でのプログラミング教育必修化を検討していることを受けファシリテータ講習を開催した。講演件数は1,285件（一般セッション216件、学生セッション1,069件）、総参加者数は3,070名であった。

※前年度参考：講演件数 1,441 件，総参加者数 2,936 名

(2) 第 16 回情報科学技術フォーラム (FIT2017) [所掌：FIT 運営委員会]

FIT2017 (第 16 回情報科学技術フォーラム) を，2017 年 9 月 12～14 日に東京大学 本郷キャンパスにおいて開催した。講演件数は 469 件，総参加者数は 1,505 名であった。船井業績賞受賞者東京大学名誉教授／マイクロソフトリサーチアジア首席研究員 池内克史氏による受賞記念講演を実施した。イベント企画セッションは，電子情報通信学会 100 周年記念と連動したイベント企画をはじめ，計 23 件を実施した。今回より査読論文を廃止し，選奨セッションを設けた。また，収支改善を図るため，新たにスポンサー制度を設け，スポンサー 10 口，ランチョンセッション 2 口を獲得した。その他，視覚障害者向け情報保障 (音声認識ツール，PC 通訳) の提供や，ランチョンセミナー (2 社) を開催した。

※前年度参考：講演件数 598 件，総参加者数 1,344 名

(3) 表彰 [所掌：全国大会組織委員会]

優れた発表を顕彰するため，全国大会優秀賞・奨励賞などを贈呈した。詳細は付録 5 (p. 51) に掲載する。

6.2 セミナー／ソフトウェアジャパン／プログラミング・シンポジウム

(1) 連続セミナー2017 [所掌：セミナー推進委員会]

「イノベーション最前線：2020 年を超えて生き抜くための技術を探る」を全体テーマとし，年度内に全 6 回開催し，本会場 (東京) 延べ 590 名，遠隔会場 (大阪) 延べ 126 名，(全体) 延べ 716 名の多数の参加があった。

※前年度参考：全 6 回，東京／大阪延べ参加者数 714 名

(2) 短期集中セミナー [所掌：セミナー推進委員会]

年度内に，次の短期集中セミナーを開催した。

- ・「ITガバナンスの国際規格 (ISO/IEC 38500 シリーズ) と今後の展開について～各国の IT ガバナンスの現状と国際標準の活用～」(6 月) 参加者：109 名
- ・「Exciting Coding! Junior 2017：スクラッチを使ってプログラミングを学ぼう！」(9 月) 参加者：30 組 (60 名) (小学校高学年向け)
- ・「ワークプロダクトレビューの技術とプロセス～レビュー技術・事例と標準化最新動向の紹介～」(10 月) 参加者：56 名
- ・「プライバシーフレンドリーな社会に向けて」(11 月) 参加者：41 名

(3) ソフトウェアジャパン 2018 [所掌：IT フォーラム推進委員会]

「IT が変える社会・生活・仕事」を学術総合センター・一橋記念講堂にて開催した。

昨年と同様に，テーマにもとづいた「メインセッション (午後開催)」を有料，IT フォーラムならびに関連団体がそれぞれに企画をする「IT フォーラムセッション (午前開催)」は無料，という形で実施した。午前のビッグデータ活用実務フォーラムと午後のメインセッション基調講演のニコニコ動画配信を行い，7,163 件の来場者数があった。また，音声認識ツールによる情報保障を行った。

総参加者数 643 名 (メインセッション 217 名，IT フォーラムセッション 568 名，重複含む)

スポンサー：6 口，サポーター：25 口，展示：1 口，メディア展示：2 口

※前年度参考：参加者数 767 名，スポンサー：8 口，サポーター：28 口，展示 8 口

(4) プログラミング・シンポジウム [所掌：事業運営委員会]

年度内に 3 回 (第 59 回プログラミング・シンポジウム，夏のプログラミング・シンポジウム 2017，第 50 回情報科学若手の会) のシンポジウムを開催した。いずれも 2 泊 3 日の合宿形式で開催され，活発な

議論が行われた。

6.3 ITフォーラム [所掌：ITフォーラム推進委員会]

- ① 2017 年度はサービスサイエンスフォーラム，コンタクトセンターフォーラム，ビッグデータ活用実務フォーラム，CITP フォーラム，ユニバーサルデザイン協創フォーラム，勉強会フォーラムの6つのITフォーラムが活動を行った。各フォーラムの主な活動内容は以下のとおり。
 - ・CITP：4回の全体コミュニティ会合を実施。10月には，本会東北支部の協賛を得て石巻シンポジウムを開催した。
 - ・コンタクトセンター：代表者変更等による過渡期等もあって勉強会の開催頻度が少なかった。コンタクトセンター業界でコンサルティング，セミナー講演をしている方々を数名参加メンバーに加えた。
 - ・サービスサイエンス：1.5ヶ月に1回程度のミーティングと年1回の合宿を行った。協力関係にあるコンタクトセンターフォーラムと3年間の努力が実り，多摩大学大学院にコンタクトセンターの科目を2018年から開くことが決まった。
 - ・ビッグデータ活用実務：今年度勉強会として実施できたのは「第8回マシンラーニングのら猫勉強会『Julia データサイエンス』」1回のみであった。9月にメンバーで翻訳本「Julia データサイエンス-Julia を使って自分でゼロから作るデータサイエンス世界の探索」を出版した。
- ② ソフトウェアジャパン 2018 の IT フォーラムセッションにおいて，関連団体*との連携イベントを推進した。

※情報処理推進機構（IPA），先端 IT 活用推進コンソーシアム（AITC）

6.4 AI プログラミングコンテスト [所掌：プログラミングコンテスト委員会]

- ① 学生および若手技術者の育成を目的として，世界規模の対戦型プログラミングコンテスト「Samurai AI Coding2017-18」を開催した（オンライン予選と決勝戦）。2月12日 AoE（日本時間 2月13日 20:59）を締切としたオンライン予選には，147チームの参加があった。
- ② 決勝戦には，国際：2チーム，国内：14チームの全16チーム20名が予選結果から選抜され，2018年3月14日（水）に早稲田大学西早稲田キャンパスで第80回全国大会イベント企画として決勝戦を開催した。また決勝戦を全国大会参加者が自由に観覧できるようにすると同時に，懇親会には予選敗退チームも招待し，参加者およびスポンサーを含む関係者間の交流とプログラミング学習・スキル向上およびコンテストの取り組みの認知向上・広がりにも寄与するように努めた。

6.5 各支部による支部連合大会，講習会等の開催 [所掌：各支部]

支部連合大会，講習会，講演会，セミナー，国際ワークショップ，ジュニア会員向けイベント等，各支部において活発に活動がなされた。詳細は，付録2（p.42～p.43）および付録5（p.52～p.53）に掲載する。

7. 実施事業4：会誌の刊行（定款第4条1項1号および2号）

※発刊状況の詳細は付録3（p.44）に掲載する。

7.1 会誌「情報処理」 [所掌：会誌編集委員会]

(1) コンテンツ

- ① 会誌「情報処理」第58巻5号から第59巻4号まで計12号（本文1,218ページ，広告68ページ，平均発行部数17,562部／号）を編集発行した。

- ② 塚本編集長のもと「読まれる学会誌」を目指して、会員サービス、および会員増という観点から編集を行い、時宜を得た特集、連載、単発記事が提供できるよう努めた。
- ③ 女性会員増への施策として女性編集委員による連載「会誌編集委員会女子部」の連載を継続した（59巻3号で終了）。
- ④ 学会Webとの連動企画として、昨年に引き続き9月号「研究会推薦博士論文速報」では、本誌に簡略版、Webにその詳細を掲載した。
- ⑤ 会員に気軽に会誌を開いてもらうための試みとしての連載漫画「IT日和」を継続した。
- ⑥ 会議レポートの掲載数を増やし、会員へ国内外会議の周知、また積極的な参加を呼びかけた。
- ⑦ 時事性・話題性の高い記事をスピーディに掲載する「特別解説」、著名人による「巻頭コラム」、シニアコラム「IT好き放題」、連載「古機巡礼/二進伝心」、コラム「ビブリオ・トーク-私のオススメ-」、教育コーナー「ぺた語義」を引き続き掲載し、概ね好評を得た。また、「ビブリオ・トーク-私のオススメ-」を書籍化し本年度の販売部数は1,123部であった。
- ⑧ プログラミング学習者向けの記事として、特集「ちょっと変わったプログラミング教室」（58巻6号）、小特集「プログラミング・エクスペリエンスの新潮流」（58巻11号）を掲載した。
- ⑨ ACMの協力を受けた特集「チューリング賞50周年によせて」（58巻5号）を掲載した。
- ⑩ 大学学部生、修士学生、博士号進学希望者などに向けた特集「博士課程進学のメリット・デメリット」（58巻5号）を掲載した。

(2) その他、広報・宣伝の充実および編集体制の改善

- ① 会誌の紙質とサイズを59巻1号より変更した。これにより、用紙代削減、全面カラー化、発送費削減となり、携帯性も向上された。
- ② 冊子版に掲載された広告をWebカタログとして学会Web上に掲載するサービスを継続した。
- ③ 学生向けの「就職情報」の掲載企業は28社であった。
- ④ メールニュースをより魅力的なものとするため、昨年に引き続き「理事からのメッセージ」を掲載した。
- ⑤ App Storeでの会誌電子版の販売を継続した。2017年度の会誌アプリDL数は過去最高の3,748件となった。またFujisanにて特集別刷電子版の販売を継続した。
- ⑥ 各記事のページ数を減らし、印刷コストの削減を図った。
- ⑦ IPSJメールニュースにおける会誌・論文誌の目次配信を継続した。ニコニコ静画での販売も継続したが、2017年度は特集6件の売上で極めて低調であった。
- ⑧ 58巻4号特別企画として作成した情報処理学会LINEスタンプシールのダウンロード数は9,505件となった。
- ⑨ 全国大会とFITにおいて、会誌関連イベントを開催した。

8. 実施事業5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第4条1項1号および2号）

※各発行状況の詳細は付録3（p.44～p.46）に掲載する。

8.1 論文誌（ジャーナル/JIP/トランザクション/デジタルプラクティス）

(1) 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊） [所掌：ジャーナル編集委員会]

- ① 論文の充実（論文投稿数の増加に向けた取り組み）

論文誌（一般論文、特集号論文）の月刊体制を維持し、306編（含JIP preprint92編）が掲載された。

招待論文を 7 編および特集号を 20 号発行した。ジャーナル/JIP 編集委員会幹事会が提案母体となる「若手研究者特集号」を企画（投稿条件：第一著者が会員）し、投稿と同時に第一著者 29%の方が入会をした。全国大会でイベント企画「論文必勝法」を実施し、出席者に投稿を促した。

② 編集体制の改善

編集委員会の継続性の向上やノウハウの伝承のために、体制の見直しを行い、編集規程の改定を行った（施行は 2018 年度）。この改定により、理事とは独立した編集長（任期は 1 期 2 年で再任まで）を設け、さらに、グループ主査および副査の任期について柔軟に対応できる体制となる。

(2) 「Journal of Information Processing (JIP)」 [所掌：JIP 編集委員会]

年間論文採録数の目標 70 編に対して採録件数は 90 編であった。収支構造と論文被引用数の分析を行い、2015 年 8 月からの JIP 掲載料 30%割引キャンペーンは 2017 年 7 月末で終了し、国外からの投稿等に対する優遇策は継続することとした。

(3) トランザクション (10 誌) [所掌：各トランザクション編集委員会]

研究会が編集した「情報処理学会論文誌（トランザクション）」10 誌を年度内に計 42 回発行した。トランザクションの掲載論文は計 130 件となった。

(4) 実務活動の論文誌「情報処理学会デジタルプラクティス」 [所掌：デジタルプラクティス編集委員会]

- ① 論文誌「デジタルプラクティス」通巻 30 号～33 号の特集号企画と編集、投稿論文の審査・共同推敲を行った（招待論文 23 編、特集号投稿論文 9 編、一般投稿論文 7 編、推薦論文 1 編を掲載）。
- ② DP 論文特集セミナーとして 6 月の連続セミナーで「加速するオープン・サービス・イノベーション」を開催した。また、11 月の短期集中セミナーで「プライバシーフレンドリーな社会に向けて」を開催した。
- ③ FIT2017 ではイベント企画「オープンデータ活用の最前線ーデジタルプラクティスライバー」を行った。また、その講演内容とパネル討論の様子を 33 号特集「オープンデータを活用した新しい社会」にて掲載した。
- ④ 何がプラクティスなのかを簡潔に表現したデジタルプラクティス論文マニフェストを作成し、Web サイトや査読の手引きで公表した。
- ⑤ 著者に、より強い動機をもってクオリティの高い論文を執筆していただくために「デジタルプラクティス論文賞」の選考を行い、ソフトウェアジャパン 2018 にて授賞式を行った。
- ⑥ 31 号、32 号を html ページで公開し、読みやすさが向上されアクセス数が大幅に伸びた。また、33 号から完全に印刷版を廃止し電子版のみとすることで印刷コストが削減された。
- ⑦ 本文の html 化に伴い版面を 1 段組とした。一方で別刷は今まで通り 2 段組にすることから、組み直しの制作コスト分を付加した別刷料金体系に変更した。
- ⑧ 第 80 回全国大会で企画セッション「現場から見た情報セキュリティの現状と今後ーデジタルプラクティスライバー」を開催した。
- ⑨ DP の課題について提起があり、目標・KPI 設定の議論の場を設けた（2018 年度も継続）。

(5) Information and Media Technologies (IMT) [所掌：IMT 編集運営会議]

2006 年に創刊した英文論文合同アーカイブ「Information and Media Technologies」は、参加学会合意のもと、2017 年末で新規論文の発行を終了した。

(6) その他

各誌の優れた論文を顕彰するため、論文賞、デジタルプラクティス論文賞等を贈呈した。詳細は付録 5 (p. 49, p. 53) に掲載する。

8.2 専門誌：教科書シリーズ [所掌：出版委員会]

新しい体制で既企画のメンテナンスを中心に活動を行い、新版1冊、改訂2版を1冊刊行し、重版を18冊行なった。

8.3 歴史資料の保存・公開 [所掌：歴史特別委員会，コンピュータ博物館小委員会]

- ① 「情報処理技術遺産」4件と分散コンピュータ博物館1件の関連調査と認定を行った。（情報処理技術遺産累計：100件，分散コンピュータ博物館累計：10件）。詳細は付録5（p.53）に掲載する。
- ② 「コンピュータ博物館」に日本語版13版（遺産認定機器の追加，年表に記載されていて解説のない項目に解説を追加）を公開した。（本年度のアクセス数506,375件（日英合わせ），転載数13件）
- ③ オーラルヒストリー1件を会誌に掲載した。
- ④ 第80回全国大会で特別セッション「私の詩と真実」を開催した。
- ⑤ 歴史的価値のある機器の譲渡申込みへの対応など遺産の保存につながる活動を行った。

8.4 電子図書館事業の推進 [所掌：デジタルコンテンツ事業検討委員会]

- ① サイトライセンスサービスは75件の契約数を目標としたが，62件にとどまった。
- ② 論文誌ジャーナル，シンポジウムにおいてマルチメディアコンテンツを含む論文公開を促進した。
- ③ 電子図書館の設定を変更し，画面表示速度の改善を行った。

9. 実施事業6：標準化活動（定款第4条1項3号）

9.1 情報規格調査活動 [所掌：情報規格調査会]

(1) 国際標準化中心メンバーとしての貢献

前年度から引き続き，メディア符号化（SC29），デジタル記録媒体（SC23），文字コード（SC2）などの重点領域の委員会議長，幹事国などの国際役職引き受けを継続するとともに，国の代表として，JTC1 総会（10月ウラジオストク）に出席し，審議プロセス・組織の見直し，新規標準化領域などの議論に参加した。

- ① 今年度の引き受け件数は，議長4件（全22SC委員会中），セクレタリアート5件（全22SC委員会中）で昨年と変化なし。その他，コンビーナ（各SC委員会傘下のWG主査）13件（85WG中），プロジェクトエディタ延べ224名と昨年同様に貢献した。
- ② 重要な標準化領域に対しては新たな会員の参加を促しつつ積極的に貢献している。JTC1 ウラジオストク総会で新たに設立が決議された分科委員会 SC42(Artificial Intelligence)は，国際として2018年4月に開始されることに伴って，国内対応委員会として SC42 専門委員会を設置する準備を開始した。
- ③ 日本提案による国際標準化の推進としては，新業務項目（NP）の提案(投票中)3件，国際標準（IS）などの発行されたもの15件などである。
- ④ 国際会議の日本での開催： JTC1/JAG，JTC1/WG9，SC32，SC34，SC36/WG6，SC37/WGs および SC40 と7件の国際会議を開催した。また，2020年の総会招致に向けて開催候補地の検討等の準備を開始した。
- ⑤ 標準化の対象が社会システムなど上位のレイヤに移るトレンドの中，JTC1が取り組むテーマがISO，IEC，およびITU-Tと重複する傾向が進んでいる。それぞれ対応する国内標準化団体が異なるため，相互に連携を図って日本としての効率的な標準化活動を促進することが肝要となってきた。この目的のもと，まずはJTC1と連携テーマがあるITU-Tへの国内対応委員会を設置している（一社）情報通信技術委員会（TTC）との連絡会を継続して開催した。

(2) 健全な情報規格調査会の運営の維持

- ① 情報規格調査会の安定的な運営のための、新たに専門委員会を設置した際の会費の扱いや情報システムの見直し等について検討している。
- ② 国際標準化活動への参加・貢献の割合をできる限り維持することに努めた。409回の標準化国際会議への参加者は、延べ1,086人とほぼ昨年並みを維持した。
- ③ 今年度も引き続き、本部と情報規格調査会との連絡会を開催した。情報セキュリティの保持、著作権の問題、予算策定など、情報共有を図りつつ運営を推進した。

(3) 広報活動とセミナーの実施

- ① 広報活動を強化し、情報規格調査会の存在と活動に関する認知度を高めるため、まずは広報の対象となる事案の基準の検討を開始した。前年度に引き続き、委員会活動を広く紹介するための一般向けの広報誌としての活動報告を年1回発行した。
- ② 情報技術標準化フォーラム（2017年5月23日）：経済産業省 サイバーセキュリティ課 技術戦略企画調整官 土屋 博英氏による「IoT政策の方向性と経済産業省の取り組み」と、情報処理推進機構、SC41専門委員会委員長 河合 和哉氏による「JTC 1におけるIoT関連の標準化動向と日本の取組み」の2件の講演を実施した。
- ③ SC7「ワークプロダクトレビューの技術とプロセス」、SC40「IT ガバナンスの国際規格（ISO/IEC 38500シリーズ）と今後の展開について」の2件の有料セミナーを実施した。

(4) 表彰

標準化関連活動への貢献を顕彰するため、標準化貢献賞等を贈呈した。詳細は付録5（p.54）に掲載する。

10. 実施事業7：国際活動（定款第4条1項5号および2号）

10.1 関連する海外学協会との連携・協力

(1) International Federation for Information Processing (IFIP) 活動への参加 [所掌：IFIP委員会]

- ① IFIP日本代表、各TC日本代表の総会 General Assembly (GA)・理事会 Council への参加
IFIP総会（9月10日～13日、コロンボ（スリランカ））に村山 IFIP 日本代表（兼 IFIP Vice President）が参加した。
- ② 各TC日本代表がTC-meetingへ参加した。会誌（3月号）への活動報告、会議レポートの掲載のほか、メールニュース、Web を利用した情報発信を行った。
- ③ International Professional Practice Partnership (IFIP IP3) への参画（IP3は2015年10月に正式にIFIPの組織と承認された）

(2) IEEE-Computer Society との連携・協力

- ① 2017年7月4日～8日にイタリア トリノ市にて開催された The 41st Annual International Computer Software & Applications Conference (COMPSAC2017) への技術協力を行った。
- ② 第80回全国大会において IEEE-CS 会長 Hironori Kasahara 氏を招聘し招待講演を行った。また、この機会に IEEE-CS と当学会の情報交換を行った。
演題「Future of High-Performance Low Power Multicore Computing」
- ③ 2017年6月にフェニックスで開催された IEEE-CS BoG meeting に本会副会長が参加した。
- ④ 姉妹学会 MOU を継続し、会員向けの連携サービスを継続。
- ⑤ IEEE-CS と本会との Joint Award として、「IPSJ/IEEE-CS Young Computer Researcher Award」3名

の受賞者を決定した。授与式は次年度の COMPSAC2018 (2018年7月23日～27日, NII) を予定している。

(3) 海外学協会との連携・協力

① China Computer Federation (CCF) と Korean Institute of Information Scientists and Engineers (KIISE) との連携・協力

- ・10月に中国, 12月に韓国, 3月に東京にて3学会によるCJK Meetingを行い交流を深めた。
- ・10月のCCFの年次大会に参加し, 本会からは開会式の来賓挨拶を行い, CJK技術フォーラムへ参加した。
- ・12月のKIISEの年次大会に本会から副会長が出席し招待講演を行った。
- ・第80回全国大会において, CCF Executive member of the council Shi-Min Hu 氏を招聘し招待講演を行った。

演題「Intelligent Processing of Visual media and it's applications」

- ・第80回全国大会において, KIISE 会長 Young Ik Eom 氏を招聘し招待講演を行った。

演題「System Software Trends on NVM Technologies」

② 他の海外学会との協力関係の継続

第80回全国大会において, 招待講演としてACM会長Vicki L. Hanson氏のビデオメッセージを放映した。また, 以下の海外学会との協力関係を継続するとともに, アジアの関連学会とは中長期的な交流に向けて意見交換や相互訪問を行った。

- ・Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE)
- ・Association for Computing Machinery (ACM)
- ・Computer Society of India (CSI)

③ The International Association for Pattern Recognition (IAPR) 活動への参加

(4) 国際会議の開催 (4件)

※開催状況の詳細は付録4 (p. 48) に掲載する。

11.1. その他：関連学協会等との連携および協力 (定款4条1項6号)

11.1 関連学協会・日本学術会議

(1) 日本工学会および電気・情報関連学会連絡協議会への参加

日本工学会事務研究委員会への参加, 電気・情報関連学会連絡協議会への参加など関連学協会の共通の問題について意見交換を行った。

(2) 研究発表・学術講習会等の共催

電子情報通信学会との共催による「情報科学技術フォーラム (FIT)」ほか, 研究発表会および学術講習会において関連学協会等と適宜共催を行った。

(3) 日本学術会議など関連団体等への協力

日本学術会議に協力学術研究団体として協力するとともに, 理学・工学系学協会連絡協議会に参加した。

11.2 会議の協賛後援等

(1) 国内会議の協賛・後援等

「平成29年電気学会 産業応用部門大会」(一般社団法人 電気学会主催, 2017年8月29日～31日開催)ほか, 関連学協会等の会議の協賛・後援等120件を行った。

(2) 国際会議の協賛・後援等

「The 24th International Display Workshops (IDW' 17)」(一般社団法人ディスプレイ国際ワークショップ主催, 2017年12月6日～8日開催)ほか, 関連学協会等の会議の協賛・後援等22件を行った。

12. 法人運営

12.1 入会促進

(1) 新規会員の獲得と会員減の防止

会員減対策として以下の施策を実施した。ジュニア会員の入会は増加したが, 正会員の減少は依然継続しており, 学生会員の入会も伸び悩み, 今年度の個人会員合計は残念ながら225名の減少となった。

- ① ジュニア会員制度を推進し若い世代の入会促進に努めた。
- ② 各活動において学会の価値向上策に取り組むとともに, 理事を中心に, 新規会員の勧誘および退会防止に努めた。
- ③ 連続セミナー・ソフトウェアジャパンの開催, デジタルプラクティスのhtml化など実務家・ITエンジニアに向けた活動を推進した。また, 関連イベントの非会員参加者が入会する際, 連続セミナー, 短期集中セミナーについては, 入会金を免除するよう対応したが入会希望者はなかった。なお, 入会費用の無料施策により本年度は, CITP認定者のうち86名(個人3名, 企業83名), DP論文賞受賞者1名の計87名の無料入会があった。
- ④ 産業界に属する会員への学会価値向上に向けて検討を行った。

(2) 学生会員ならびにジュニア会員の獲得と育成

- ① ジュニア会員制度を通じて若年層に学会活動を広く周知し, 学生会員育成活動を推進した。
- ② 研究会ならびに支部の協力により新規学生会員の獲得活動を実施し, 学生会員の正会員への移行・定着の施策として1研究会への無料登録を継続した。
- ③ 支部のジュニア会員向けイベントに対して積極的な支援を推進し, 支部で実施しているイベントにおいてジュニア会員制度のPRを実施し, 更に入会フォームの簡素化や入会期間延長などにより入会機会を拡大した。また, 学生・若手向けセミナーの企画開催など, 学生会員の新規獲得と正会員への定着率の向上に努めた。
- ④ 学会ホームページ上でのジュニア会員向けコンテンツの拡充を実施し入会メリットの訴求に努めた。

12.2 政策提言活動の推進

情報処理に対する一般社会の価値認識を高めるとともに, 学会の存在感の向上を図り, 国および関連機関から「頼られ&相談される学会」を目指して政策提言活動の強化を図った。情報系の各種パブコメに対しては以下のとおり4件の意見を提出した。また, 国土交通省が推進している第4期国土交通省技術基本計画に対するヒアリング調査への協力を行った。

- ・「高大接続改革の進捗状況」に対する意見(2017年6月)
- ・「教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会教職課程コアカリキュラム案」に対する意見(2017年6月)
- ・「教育職員免許法施行規則および免許状更新講習規則の一部を改正する省令案」に対する意見(2017年8月)
- ・「学校教育法施行規則の一部を改正する省令案及び高等学校学習指導要領案」に対する意見(2018年3月)

12.3 運営体制の充実・改善等

(1) 新世代発想の学会運営への取り込み

- ① 学会イベントのニコニコ動画配信を推進し、全国大会、ソフトウェアジャパン等で多くの視聴者を集めた。
- ② 第77回全国大会から開始した IPSJ-ONE を引き続き第80回全国大会で開催した。
- ③ 2016年度に設立した、論文読み会などの資料共有を目的とした「勉強会フォーラム」を引き続き運用し、コンテンツを拡充した。
- ④ 学会イベント受付のオンライン化の試行を行った。
- ⑤ 学会イベント支援として公式チャットシステムを導入して研究会にて試験運用を継続した。
- ⑥ ジュニア会員ページの募集期間変更、Web サイトリニューアル検討、Q&A サービスなどジュニア会員サービスの企画を進め、ジュニア会員に対する魅力の向上に対する取り組みを行った。
- ⑦ 企業向けに研究者を紹介する「研究マッチング(試行サービス)」を実施し、実際にヒアリングを行った結果をもとに継続サービス化の議論を行った。

(2) 寄付の募集

個人および企業の皆様に幅広く寄付の御願いをした。

(3) 長期的ビジョンの継続体制の確立

長期戦略理事を中心に、中長期戦略提言に向けた検討報告書記載事項(IPSJ イニシアティブ、学会のハブ機能強化)の実現に向けた具体的な計画・担当組織・アクションについて検討を進めた。IPSJ イニシアティブについては、その候補キーワードを抽出し、活動の方向性毎の整理を開始した。また、短期的には、分野・項目毎の目標と指標を明示し、計画を具体化各事業の諸施策の着実な実施を推進した。

(4) アドバイザリーボードによる運営改善

「魅力ある学会」に向け、学会活動に関する中長期計画を踏まえつつ、第三者機関であるアドバイザリーボードミーティングを2017年7月に開催し、ボードメンバーからの助言を実施事業の企画および運営の改善に役立てた。

(5) 広報活動の推進・諸活動のデータ収集

- ① 学会 Web の充実の他、Facebook, Twitter ならびに App Store への会誌とデジタルプラクティスの掲載、情報処理学会公式ニコニコチャンネルなどソーシャルメディアを活用した積極的な広報活動を推進した。
- ② 各種行事等の場での入会促進および学会紹介、IPSJ メールニュースの内容充実を図った。
- ③ 会員の入退会、大会・セミナー等への投稿・申込み状況、会誌等のモニタ会員による評価など、関連データの収集・分析を継続し諸活動の評価・改善に努めた。

(6) 会員サービスの充実に向けた学会情報システムの見直し

今年度は、学会システムリニューアルの開発を進めており、2018年度内を目標に稼働させる。合わせて支部システムのセキュリティ強化について検討を行った。

(7) 2016年度監事付帯意見への対応

2016年度監事付帯意見(2017年6月開催の第618回理事会に監事が提出)について、改善策の検討ならびに学会運営および中長期計画への反映などの対応を実施し、結果を626回理事会(2018年4月)で報告した。監事付帯意見は、会員獲得の方向性、学会活動のコンパクト化とIT化、学会による出版の再考、収益構造の改革の4項目から成り、比較的早期に対応可能なIT化については2018年度内の稼働を目指し学会システムのリニューアルを進めた他、他のすべての項目についても対応方法を検討し、学会の中長期的な課題として継続的な検討を進めることとした。

(8) 著作権関連 [所掌：著作権委員会]

著作権規程第4条・5条，著作権委員会規程第3条の改定を行った。知的財産専門委員17名の推薦を行った。

(9) 参加しやすい総会を目指した取り組み [所掌：総務財務運営委員会]

普段交流の少ない賛助会員にも学会活動に親しんでもらうことを目指し，2017年6月の総会において我が国の科学技術イノベーション戦略-Society5.0やIoTとサイバーセキュリティに関する講演会や交流会の実施，本会コンピュータ博物館の歴史遺産の一つである「リレー式計算機AL-1型」の動態展示を行い22社のご参加を頂いた。また，歴代会長の懇談会を行い，学会に関する意見交換を行った。

(10) 女性会員増への取り組み [所掌：Info-WorkPlace委員会]

- ① Yahoo!アンケートを利用し，現在の仕事への満足度と理想の職場環境に対するアンケートを実施した。
- ② FIT2017 イベントの前段として，6～8月の毎週水曜日にニコニコ生放送「すいすい読書会」を実施し好評を博した。
- ③ FIT2017 でイベント企画「働き方改革のプラクティス：Joy, WorkPlace with すいすい読書会」を実施した。
- ④ 第80回全国大会でイベント企画「はじめよう♪ グラフィックレコーディング」を実施した。
- ⑤ イベント，ワークショップ等の共催・後援等
 - ・2017年11月「Cordertreat for Girls」協力（enPiT女性部会 WiT 主催）
 - ・2017年8月「女子中高生夏の学校2017」での企画「Scratchを使ったプログラミング体験—祭りだわっしょい！—」協力（enPiT女性部会 WiT 主催）
 - ・2017年12月「電子工作でクリスマス飾りを作ろう会2017」共催（enPiT女性部会 WiT 共催）
- ⑥ Info-WorkPlace 委員会の活動をもっと知ってもらうために，女子学生向けの広報物を作成した。

12.4 その他表彰等

(1) 顕彰，名誉会員・フェローの選定など

功績賞，学会活動貢献賞の贈呈のほか，フェロー認定，情報処理技術遺産認定を行った。詳細は付録5（p.49，p.52）に掲載する。

(2) 事務局職員

事務局常勤職員の年度末在籍者は28名（本部21名，規格7名，前年末は29名）である。

以上

<p>第618回理事会 2017年6月2日</p> <p>議長：富田達夫（会長）</p> <p>議決可能理事数：全議案とも27名 出席理事数：24名</p>	<p><承認事項></p> <ol style="list-style-type: none"> WGCE2021招致活動と開催地立候補の承認のお願い【教育】 著作権規程の改訂について【会誌】 編集規程および論文誌編集細則の改訂に関する承認依頼【論文誌】 情報規格調査会委員の変更【標準化】 <p><審議事項>（該当なし）</p> <p><報告事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 法令・定款による理事の職務執行状況報告（3月～5月）【総務】 期末会計監査結果報告書：詳細（監査法人）【総務】 中長期戦略提言に向けた検討報告書（企画政策委員会）【企画】 第158回総務財務運営委員会議事録【総務】 2017年度第2回企画政策委員会議事録【企画】 第66回学会システムWG 議事録【総務】 第8回日本学術振興会育志賞の推薦について【総務】 2016年度監事監査報告および付帯意見【監事】 第220回会誌編集委員会議事録、会誌モニタ評価・特集一覧等【会誌】 会誌広告状況（2017年5月現在）【会誌】 著作権委員会規程の改訂について【会誌】 ジャーナル・JIP特集／トランザクション発行状況【論文誌】 デジタルプラクティス：特集リスト・ダウンロード数【技術応用】 <p>参. 理事会アクションアイテムリスト</p>	<p>承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認</p>
<p>第619回理事会 2017年6月2日</p> <p>議長：東野輝夫（副会長）</p> <p>議決可能理事数：全議案とも27名 出席理事数：25名</p>	<p><承認事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 代表理事（会長・副会長）および業務執行理事の選定 	<p>承認</p>
<p>第620回理事会 2017年6月20日</p> <p>議長：西尾章治郎（会長）</p> <p>議決可能理事数：全議案とも27名 出席理事数：25名</p>	<p><承認事項></p> <ol style="list-style-type: none"> ソフトウェアアジア2018運営にあたって（委員長の旅費について）【技術応用】 情報規格調査会委員の変更【標準化】 <p><審議事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 企画政策委員会関係【企画】 <ol style="list-style-type: none"> 学会価値の向上 会員増／監事付帯意見／中長期戦略への対応（依頼） JIP掲載料割引キャンペーンの見直しについて【論文誌】 <p><報告事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 2017年度会員状況（2017年6月現在）【総務】 第159回総務財務運営委員会議事録【総務】 2017年度第3回企画政策委員会議事録【企画】 アドバイザーボードメンバー確認と説明資料【総務】 IEEE GS BoG出張報告【副会長】 第221回会誌編集委員会議事録、会誌モニタ評価・特集一覧等【会誌】 会誌広告状況（2017年6月現在）【会誌】 ジャーナル・JIP特集／トランザクション発行状況【論文誌】 デジタルプラクティス：特集リスト・ダウンロード数【技術応用】 <p>参. 理事会アクションアイテムリスト</p>	<p>承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認</p>
<p>決議の省略・報告の省略 2017年7月1日（監事確認日）</p> <p>議決可能理事数：全議案とも27名</p>	<p><法令および定款により理事会決議があったものとする事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 2017年6月の新規入会申請【総務】 シンポジウム等の開催願い/終了報告【調査研究】 国内会議の協賛・後援等依頼【事業】 国際会議の協賛・後援等依頼【事業】 <p><法令および定款により理事会報告があったものとする事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 2017年5月期開催会議【総務】 2017年4,5月次損益管理表【財務】 第29回・30回新世代企画委員会議事録【新世代】 学会システムMonthly統計資料（2017年5月分）【総務】 「高大接続改革の進捗状況」パブコメ提出【総務】 「教職課程コアカリキュラム案」パブコメ提出【総務】 第58回情報処理学会教科書編集委員会議事録【会誌】 第105回歴史特別委員会議事録【会誌】 第38回セミナー推進委員会議事録【技術応用】 第84回デジタルプラクティス編集委員会議事録【技術応用】 第37回個人認証審査委員会議事録【技術応用】 	<p>承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認</p>

	参. 理事会アクションアイテムリスト	確認
決議の省略・報告の省略 2017年10月31日（監事確認日） 議決可能理事数：全議案とも27名	<p><法令および定款により理事会決議があったものとする事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2017年10月の新規入会申請 [総務] 2. 事務局人件費について [総務] 3. シンポジウム等の開催願い [調査研究] 4. 国内会議の協賛・後援等依頼 [事業] 5. 国際会議の協賛・後援等依頼 [事業] 6. 文部科学省大学入学者選抜改革推進受託事業「情報学的アプローチによる『情報科』大学入学者選抜における評価手法の研究開発」第2回シンポジウム開催願い [教育] 7. 文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業「情報学的アプローチによる『情報科』大学入学者選抜における評価手法の研究開発」「情報科」大学入学者選抜試行試験の実施について [教育] 8. 情報規格調査会委員の変更 [標準化] 9. 情報規格調査会規程実施細則の変更 [標準化] <p><法令および定款により理事会報告があったものとする事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2017年9月期開催会議 [総務] 2. 2017年9月月次損益管理表 [総務] 3. 期中会計監査結果報告（2017年9月） [総務] 4. 2017年度支部長会議議事録 [総務] 5. 2018年度役員候補者推薦状況報告 [総務] 6. 学会システムMonthly統計資料（2017年9月分） [総務] 7. 会誌広告状況（2017年10月現在） [会誌] 8. 第79回調査研究運営委員会議事録 [調査研究] 9. 各領域委員会報告（議事録抜粋） [調査研究] 10. 2018年度研究会登録費の算定について [調査研究] 11. 研究会の継続について [調査研究] 12. 第442回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会（幹事会）議事録抜粋 [論文誌] 13. 第41回セミナー推進委員会議事録 [技術応用] 14. 第14回ソフトウェアジャパン実行委員会議事録 [技術応用] 15. ソフトウェアジャパン2018開催趣意書 [技術応用] 16. 第87回デジタルプラクティス編集委員会議事録 [技術応用] 17. 2017年度全国大会組織委員会議事録 [事業] 18. FIT2018船井業績賞選定委員会議事メモ [事業] 19. 第53回プログラミングコンテスト委員会議事録 [事業] 20. 第347回規格役員会議事録 [標準化] 	承認 承認
決議の省略・報告の省略 2017年11月24日（監事確認日） 議決可能理事数：全議案とも27名	<p><法令および定款により理事会決議があったものとする事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2017年11月の新規入会申請 [総務] 2. シンポジウム等の開催願い／終了報告 [調査研究] 3. 最高裁「専門委員」推薦候補者リスト [会誌] 4. 国内会議の協賛・後援等依頼 [事業] 5. 国際会議の協賛・後援等依頼 [事業] <p><法令および定款により理事会報告があったものとする事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2017年10月期開催会議 [総務] 2. 2017年10月月次損益管理表 [総務] 3. 第31回新世代企画委員会議事録 [新世代] 4. 第68・69回学会システムWG議事録 [総務] 5. 学会システムMonthly統計資料（2017年10月分） [総務] 6. 第107回歴史特別委員会議事録 [会誌] 7. 2018年度研究会登録費の改定について [調査研究] 8. 第443回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会（幹事会）議事録抜粋 [調査研究] 9. 第42回セミナー推進委員会議事録 [技術応用] 10. 短期集中セミナー「ワークプロダクトレビューの技術とプロセス」開催報告 [技術応用] 11. 第88回デジタルプラクティス編集委員会議事録 [技術応用] 12. 第34回資格制度運営委員会議事録 [技術応用] 13. 第42回個人認証審査委員会議事録 [技術応用] 14. 第36回企業認定審査委員会議事録 [技術応用] 15. 第54回プログラミングコンテスト委員会議事録 [事業] 16. 平成29年度「先導的大学改革推進委託事業」について [教育] 	承認 承認
第623回理事会 2017年11月29日 議長：西尾 章治郎（会長） 議決可能理事数：全議案とも27名 出席理事数：24名	<p><承認事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2018年度理事会推薦役員候補者立候補依頼順位 [総務] 2. 中長期戦略提言の実現に向けたアクション-IPSJ イニシアティブタスクフォース1 外部委託：国内、海外の政府・産業界の動向調査について [長期戦略] 3. xSIG2018シンポジウム開催願い [調査研究] 4. ICMU2016国際会議終了報告 [調査研究] 5. 平成29年度JIS 契約「プロセスアセスメントープロセス測定フレームワークに対する 	承認 承認 承認 承認 承認

	8. 第228・229回会誌編集委員会議事録、特集・巻頭コラム執筆者一覧等【会誌】 9. 会誌広告状況（2018年3月現在）【会誌】 10. ジャーナル・JIP・トランザクション発行状況【論文誌】 11. 2017年度技術応用活動（ソフトウェアジャパン2018）終了報告【技術応用】 12. 2017年度ITフォーラム活動報告【技術応用】 13. デジタルプラクティス特集一覧【技術応用】 参. 理事会アクションアイテムリスト	確認 確認 確認 確認 確認 確認
--	---	----------------------------------

■各種委員会

※委員は6月以降の構成を掲載（以下、同）

◎委員長・主査、○副委員長・財務委員、幹事・副査、△担当理事（担務）、*オブザーバ、アドバイザー委員

1. 法人運営

1.1 企画政策委員会

◎/△東野輝夫、○/△浅井光太郎、今岡 仁、後藤厚宏、佐藤真一、角谷和俊、寺田 努、徳永健伸、中川八穂子、荒木拓也、大内一成、重野 寛、関口智嗣、原 隆浩、富士 仁、屋代智之

[4月24日、5月26日、6月13日、7月11日、9月19日、10月23日、11月21日、12月12日、'18年1月15日、2月27日、3月19日]

アドバイザーボード対応/中長期戦略に関する検討/会員サービスに関する検討ほか

1.1.1 学会システムWG

◎今岡 仁、赤池洋俊、石井 旬、岩岸正明、大谷裕紀、大森久美子、河口信夫、*柴田直樹、城間祐輝、鈴木 浩、*寺田 努、鳥居 悟、*中津佳彦、*富士 仁

[4月18日、5月23日、7月7日、9月20日、11月8日、'18年1月18日、3月16日]

学会管理システムに関する検討対応

1.2 政策提言委員会

◎/△東野輝夫、○/△佐藤真一、○/△原 隆浩、今岡 仁、中川八穂子、関口智嗣、後藤厚宏、角谷和俊、徳永健伸、屋代智之

[電子メールベース] パブコメ対応 ほか

1.3 総務財務運営委員会（倫理委員会）

◎/△浅井光太郎、○/△中川八穂子、○/△今岡 仁、△大内一成、△富士 仁、△後藤厚宏、△関口智嗣

[4月24日、5月26日、6月13日、7月11日、9月19日、10月23日、11月7日、11月21日、12月12日、'18年1月15日、2月27日、3月19日]

総会関連事項/損益状況/研究倫理対応/その他運営上の諸課題の検討対応

1.3.1 本部・規格連絡会

◎浅井光太郎、○△伊藤 智、○今岡 仁、△富士 仁、中川八穂子、大内一成、○関 喜一、東 充宏、伊藤雅樹、落合真一、河合和哉、成井良久、山本英朗

[5月18日、11月15日] 本部・規格調査会間の連絡

1.4 電子化委員会（学会システムWGの設置により休眠）

1.4.1 セキュリティ委員会

◎菊池浩明、△大内一成、大谷和子、岡本栄司、佐々木良一、寺田真敏、鳥居 悟、△中川八穂子、丸山 宏

[電子メールベース] 情報セキュリティに関する諸対応

1.5 新世代企画委員会

◎寺田 努、○ 重野 寛、石塚宏紀、△今岡 仁、五十嵐悠紀、△北村操代、樺 惇志、五味悠一郎、△後藤厚宏、坂本一憲、△関口智嗣、△徳永健伸、△鳥澤健太郎、土井裕介、△中川八穂子、△長谷川輝之、米澤拓郎

[4月24日、6月13日、10月23日、11月21日、12月12日、'18年1月15日、2月27日、3月19日]

新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込むための施策を検討、実施

1.5.1 若手研究者の会（幹事会）

◎寺田 努、野田夏子、近藤正章、越前 功、大内一成、関嶋政和、高岡詠子、後藤 真、*角谷和俊、*徳永健伸、*屋代智之

[電子メールベース] ほか

1.6 Info-WorkPlace委員会

◎木塚あゆみ、△北村操代、伊東 香、大場みち子、加藤由花、小山清美、高岡詠子、土田 栞、徳永健伸、鳥澤健太郎、永瀬美穂、中川八穂子、中野美由紀、長谷川輝之、坊農真弓、美馬のゆり、山本里枝子、渡辺知恵美

[6月21日、9月12日] 女性会員を増やすための施策を検討、実施

1.7 支部長会議

◎/△西尾章治郎、△東野輝夫、△浅井光太郎、△中川八穂子、△今岡 仁、△大内一成、△富士 仁、各支部長：棟朝雅晴（北海道）、菅沼拓夫（東北）、小幡哲文（東海）、山根 智（北陸）、吉川正俊（関西）、金田和文（中国）、横山和俊（四国）、富浦洋一（九州）

[9月29日、12月19日（役員検討会）] 本部-支部の意見交換

1.8 アドバイザリーボード

◎有信睦弘、舟橋千鶴子、藤本真樹、森 正弥、小山 透、金寺 登、富田眞治、澁谷裕以、牛田圭一、大竹 暁

[7月14日] 第三者的な見地からの情報処理学会の運営に関する助言

2. 調査研究活動

2.1 調査研究運営委員会

◎/△角谷和俊、○/△徳永健伸、○/△屋代智之、石川佳治、串田高幸、倉本 到、小林 稔、酒井哲也、佐藤真一、並木美太郎、西垣正勝

開催年月日	主な議事事項	会議結果
2017年7月4日	1. 2017年度委員構成確認 2. 2018年度調査研究活動への学会補助額について 3. 2018年度共通費の賦課について 4. 2018年度シンポジウム事務諸費について 5. 所属領域の変更について 6. 研究グループの新設について	確認 承認⇒ 各領域・研究会に提案 承認⇒ 各領域・研究会に提案 承認⇒ 各領域・研究会に提案 確認 確認
2017年10月17日	1. シンポジウムxSIG終了報告・開催申請について 2. 研究グループの新設について 3. 2018年度研究会登録費算定方法 4. 研究会の継続	承認⇒ 理事会提案 継続審議 承認⇒ 理事会報告 承認・確認⇒ 理事会報告
2018年3月27日	1. 研究グループの所属体制について 2. 情報保障への補助について 3. 2017年度活動状況/2018年度計画 4. 監事付帯意見への対応状況/会員増施策/事業報告/事業計画 5. 第31回IFIP委員会報告	審議 審議 確認 確認 確認

2.2 コンピュータサイエンス領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎/△角谷和俊、○並木美太郎、光来健一、五島正裕、庄野 逸、田浦健次朗、浜口清治、堀山貴史、丸山勝久、森嶋厚行、横川三津夫、渡辺晴美

2017年7月31日	領域共通-1. 2017年度山下記念研究賞 領域共通-2. 2018年度調査研究活動への学会補助額について 領域共通-3. 2018年度共通費の賦課について 領域共通-4. 2018年度シンポジウム事務諸費について 領域共通-5. 所属領域の変更について 領域共通-6. 研究グループの新設について 領域共通-7. 2016年度調査研究活動状況および決算報告	選定⇒ 理事会提案 承認 承認 承認 確認・承認 確認・継続審議 確認
2017年10月17日	領域共通-1. 研究会の継続 領域共通-2. 2018年度研究会登録費算定方法 領域共通-3. 2017年度活動状況	承認⇒ 調査研究運営委員会へ提案/報告 確認・承認 確認
2018年2月20日	領域共通-1. 2018年度領域委員長・財務委員について 領域共通-2. 研究グループの新設について 領域共通-3. 2017年度活動状況/2018年度計画 領域共通-4. 監事付帯意見への対応状況/会員増施策/事業報告/事業計画 領域共通-5. 第31回IFIP委員会報告	確認・承認 確認・承認 確認 確認 確認

2.3 情報環境領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎/△屋代智之、○西垣正勝、河口信夫、木全英明、木村朝子、清原良三、栗山 繁、児玉公信、斉藤典明、重野 寛、竹林洋一、寺島美昭、寺田 努、寺田真敏、寺田雅之、藤井 敦、水野慎士、宮下健輔、守島 浩

[7月21日、10月2日、'18年1月23日] コンピュータサイエンス領域委員会の領域共通事項に同じ。

2.4 メディア知能情報領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎/△徳永健伸、○倉本 到、乾健太郎、梶田将司、金子 格、川村秀憲、鶴岡慶雅、西田知博、長谷川晶一、馬場哲晃、峯松信明、向川康博、山田太造、吉井和佳、吉本潤一郎

[7月20日、9月27日、'18年2月6日] コンピュータサイエンス領域委員会の領域共通事項に同じ。

3. 人材育成活動

3.1 資格制度運営委員会 ※傘下のWGは掲載略

◎芝田 晃、荒木拓也、折原良平、掛下哲郎、寛 捷彦、北村操代、玉井哲雄、西 直樹、林 雅弘、吉野松樹、旭 寛治

[4月20日、5月11日、6月19日、7月19日、9月1日、9月25日、10月23日、11月17日、12月12日、1月25日、2月16日、3月26日]
認定情報技術者制度の検討

3.2 情報処理教育委員会（教育賞選定委員会を兼ねる） ※傘下の委員会は掲載略

◎萩谷昌己、○佐渡一広、○辰己丈夫、△高岡詠子、△美馬のゆり、石畑 清、稲垣知宏、井上克郎、上松恵理子、大岩 元、岡部 忠、角田博保、掛下哲郎、寛 捷彦、金寺 登、兼 宗進、久野 靖、児玉公信、駒谷昇一、斎藤俊則、清水尚彦、高橋尚子、辻 秀一、寺田真敏、冨澤真樹、中山泰一、長尾和彦、植原啓介、鷲崎弘宜、和田 勉、*神沼靖子、*寺田真敏、*西田知博

[5月16日、7月19日、9月19日、11月24日、'18年1月31日、3月23日]
JABEE対応/J17準備/情報学分野の参照基準/次期学習指導要領改訂/免許更新講習/傘下の小委員会報告ほか

4. 事業活動

4.1 事業運営委員会

◎/△長谷川輝之、○/△河内谷清久仁、屋代智之

[電子メールベース] 全国大会、FIT、その他イベントの運営推進

4.2 全国大会組織委員会 ※プログラム委員会、現地実行委員会は掲載略

◎/△東野輝夫、○/△長谷川輝之、△河内谷清久仁、角谷和俊、菅原俊治

[10月3日、ほか電子メールベース] 全国大会の運営・開催推進

4.3 FIT運営委員会 ※情報科学技術推進委員会・幹事会・実行委員会・プログラム委員会は掲載略

◎東野輝夫、○相澤清晴、○斎藤英雄、浅井光太郎、△長谷川輝之、屋代智之、中村裕一、相田 仁、全 炳東、△河内谷清久仁、徳永健伸、浜田宏一、小池崇文、武安政明、冨森英樹、吉田 悠

[7月4日、11月21日、2月22日、3月23日、ほか電子メールベース] FITの運営・開催推進

4.4 プログラミング・シンポジウム幹事会 ※運営委員会は掲載略

◎岩崎 英哉、浅野 智之、上田 真史、馬谷 誠二、大日向 大地、対馬 かなえ、山田 浩史

[6月7日、10月26日、12月18日、3月14日] 夏のプロシン/若手の会/冬のプロシンの開催推進

4.5 プログラミングコンテスト委員会

◎鷲崎弘宜、○平石 拓、*近山 隆、△河内谷清久仁、深澤紀子、坂本一憲、高田真吾、竹内郁雄、田中哲朗、吉野松樹、鈴木 浩、三輪 誠

[4月3日、6月13日、7月18日、9月4日、10月4日、11月1日、12月1日、12月25日、1月9日、1月22日、2月15日、3月26日]
プログラミングコンテストの開催推進

4.6 技術応用運営委員会

◎寺中勝美、○浅井光太郎、○△北村操代、○△荒木拓也、大内一成、冨士 仁、原 隆浩、吉野松樹、旭 寛治、芝田 晃

[6月30日、12月4日、3月28日、ほか電子メールベース] 技術応用活動全体の調整・推進

4.7 ITプロフェッショナル委員会（高度IT資格関連WGの活動により休眠）

4.8 セミナー推進委員会

◎△北村操代、○△荒木拓也、那須川哲哉、齋藤正史、浦本直彦、中野美由紀、菊池浩明、杉田由美子、平手勇宇、平山敏弘、海老澤竜、福島俊一、伊藤一成、楠 房子、青木秀一

[4月21日、5月29日、7月13日、8月25日、10月5日、11月2日、12月1日、1月19日、2月9日、3月2日] 連続セミナー・短期セミナーの開催推進

4.9 ITフォーラム推進委員会 ※ソフトウェアジャパン関連委員会は掲載略

◎△北村操代、○△荒木拓也、諏訪良武、萩川友宏、河合 洋、石井一夫、平林元明、河口信夫

[3月28日、電子メールベース] ITフォーラム・ソフトウェアジャパンの運営推進

5. 会誌

5.1 会誌編集委員会

◎塚本昌彦、△鳥澤健太郎、△坊農真弓、五十嵐悠紀、池谷彰彦、稲見昌彦、井本和範、大川徳之、加藤由花、金岡 晃、酒井洋平、佐藤史子、末永俊一郎、須川賢洋、角 康之、田名部元成、辻田 暉、鶴岡慶雅、土井千章、中田真城子、永野秀尚、水野加寿代、茂木和彦、金井 遼、坂東宏和、細野 繁、宮澤慎一、野田夏子

[4月6日、5月11日、6月1日、7月11日、8月2日、9月7日、10月3日、11月2日、12月14日、1月25日、2月8日、3月1日]

全回共通：会誌の編集刊行

6. 機関誌／出版活動

6.1 学会論文誌運営委員会

◎/△柴山悦哉、△谷口倫一郎、△角谷和俊、△徳永健伸、△屋代智之

[電子メールベース] 論文誌全体に関する諸課題の対応

6.2 JIP編集委員会（幹事会）

◎相澤彰子、△柴山悦哉、△谷口倫一郎、ほか「6.3 ジャーナル編集委員会（幹事会）」メンバ
*Adam KOZYNIAK、*Mamadou Tadiou KONÉ、*Monica CARLY、*Robert DELANEY、*Sylvain KANDEM
【海外編集委員】 Audun JOSANG（ノルウェー）、Calton PU（アメリカ）、Hee-Kap AHN（韓国）、Jeffrey Xu YU（香港）、Jungsuk SONG（韓国）、Kunsoo PARK（韓国）、M.M. Hafizur Rahman（マレーシア）、Rémi COULOM（フランス）、Seiji ISOTANI（ブラジル）、Winston SEAH（ニュージーランド）、Won-Gyu LEE（韓国）、Xiaofang ZHOU（オーストラリア）

[4月10日、5月15-16日、6月6日、7月4日、9月5日、10月3日、11月7日、12月8日、'18年1月15日、2月1日、3月6日]

全回共通：JIPの編集刊行

6.3 論文誌ジャーナル編集委員会（幹事会）

◎/△柴山悦哉、○/△谷口倫一郎、浅井信吉、田中勇樹、大平雅雄、沖野浩二、島岡政基、野呂正明、関野 樹、松島裕康、波多野大督、真鍋宏幸、渡辺博芳

[4月10日、5月15-16日、6月6日、7月4日、9月5日、10月3日、11月7日、12月8日、'18年1月15日、2月1日、3月6日]

全回共通：論文誌ジャーナルの編集刊行

6.4 トランザクション編集会議

◎/△柴山悦哉、井上智雄、岡部寿男、小口正人、北 栄輔、五島正裕、齋藤英雄、田浦健次郎、竹中要一、竹村治雄、戸川 望、野本忠司、森嶋厚行

[7月11日、11月22日] トランザクションの編集刊行に関する諸課題の対応

6.5 デジタルプラクティス編集委員会

◎吉野松樹、○茂木 強、△北村操代、△荒木拓也、飯村結香子、位野木万里、今原修一郎、大嶋嘉人、鬼塚 真、上條浩一、齋藤正史、澤谷由里子、澤邊知子、柴崎辰彦、新田 清、濱崎雅弘、平井千秋、平林元明、福島俊一、藤瀬哲朗、藤原陽子、細野 繁 *喜連川優

[4月21日、5月30日、6月28日、7月19日、9月20日、10月24日、11月22日、12月15日、1月19日、2月21日、3月30日]

全回共通：デジタルプラクティスの編集刊行

6.6 デジタルコンテンツ事業検討委員会

◎/△東野輝夫、○中川八穂子、安達 淳、△今岡 仁、△北村操代、△柴山悦哉、△角谷和俊、△鳥澤健太郎、△長谷川輝之、水野慎士

[7月5日] デジタルコンテンツ事業の推進

6.7 出版委員会

6.7.1 教科書編集委員会

◎阪田史郎、○菊池浩明、△鳥澤健太郎、△坊農真弓、井戸上彰、駒谷昇一、坂下善彦、辰己丈夫、田名部元成、沼尾雅之、平山雅之、山本里枝子

[4月7日、6月26日、10月6日、12月22日] 教科書シリーズの刊行に関する検討

6.8 歴史特別委員会（傘下の小委員会は掲載略）

◎発田 弘、○旭 寛治、△鳥澤健太郎、△坊農真弓、宇田 理、浦城恒雄、久門耕一、橋爪宏達、前島正裕、松永俊雄

[6月2日、8月31日、10月25日、1月17日]

コンピュータに関する歴史の公開推進、情報処理技術遺産等の認定ほか

6.9 著作権委員会

◎/△鳥澤健太郎、○/△坊農真弓、天野真家、大谷和子、北村操代、柴山悦哉、杉本重雄、角谷和俊、谷口倫一郎、徳永健伸、中川八穂子、屋代智之

[電子メールベース] 知的財産権専門委員推薦、その他著作権に関する対応

7. 標準化活動

7.1 情報規格調査会（規格役員会）

◎/△伊藤 智、○河合和哉、○関 喜一、△富士 仁、東 充宏、伊藤雅樹、落合真一、成井良久、山本英朗、*森田健太郎

[4月18日、5月16日、6月13日、7月11日、9月12日、10月24日、11月21日、12月20日、'18年1月16日、2月13日、3月9日]

規格賛助員の入退会等／委員変更／国際会議派遣・招致／月次決算／JTC1総会対応／標準化関連受託対応ほか

8. 国際活動

8.1 IFIP委員会

☆村山優子（IFIP日本代表）、◎/△徳永健伸、○/△角谷和俊、○/△屋代智之、小林直樹（-2017.12）、廣川 直（2018.1-）、胡 振江（-2017.12）、五十嵐淳（2018.1-）、齋藤俊則、中野 冠、相田 仁、亀田壽夫、内木哲也、小向太郎、金川信康、栗原 聡、北村喜文、星野准一、芝田 晃

[11月21日] IFIP年次総会報告／各TCの活動報告ほか。

9. 上記以外の委員会および委員は次サイトを参照

<https://www.ipsj.or.jp/annai/committee/meibo/2017meibo.html>

付2. 研究会および研究発表・学術講習会等一覧

【研究会等の詳細】

研究会等の名称（（ ）内：英略称、*：研究グループ）	主査名（運営委員数）	登録者数
【コンピュータサイエンス領域】		
データベースシステム (DBS)	森嶋厚行 (48)	458
ソフトウェア工学 (SE)	丸山勝久 (41)	487
システム・アーキテクチャ (ARC)	五島正裕 (24)	306
システムソフトウェアとオペレーティング・システム (OS)	光来健一 (33)	265
システムとLSIの設計技術 (SLDM)	濱口清治 (26)	240
ハイパフォーマンスコンピューティング (HPC)	横川三津夫 (39)	518
プログラミング (PRO)	田浦健次朗 (32)	321
アルゴリズム (AL)	堀山貴史 (23)	206
数理モデル化と問題解決 (MPS)	庄野 逸 (26)	285
組込みシステム (EMB)	渡辺晴美 (30)	262
【情報環境領域】		
マルチメディア通信と分散処理 (DPS)	重野 寛 (49)	358
ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI)	木村朝子 (37)	510
コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学 (CG)	栗山 繁 (28)	282
情報システムと社会環境 (IS)	児玉公信 (21)	197
情報基礎とアクセス技術 (IFAT)	藤井 敦 (11)	148
オーディオビジュアル複合情報処理 (AVM)	木全英明 (12)	67
グループウェアとネットワークサービス (GN)	斉藤典明 (32)	247
ドキュメントコミュニケーション (DC)	守島 浩 (11)	80
モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム (MBL)	河口信夫 (44)	289
コンピュータセキュリティ (CSEC)	寺田雅之 (46)	583
高度交通システムとスマートコミュニティ (ITS)	清原良三 (28)	164
ユビキタスコンピューティングシステム (UBI)	寺田 努 (32)	274
インターネットと運用技術 (IOT)	宮下健輔 (44)	421
セキュリティ心理学とトラスト (SPT)	寺田真敏 (19)	96
コンシューマ・デバイス&システム (GDS)	寺島美昭 (45)	201
デジタルコンテンツクリエーション (DCC)	水野慎士 (21)	97
高齢社会デザイン (ASD)	竹林洋一 (31)	102
【メディア知能情報領域】		
自然言語処理 (NL)	乾健太郎 (31)	478
知能システム (ICS)	川村秀憲 (6)	235
コンピュータビジョンとイメージメディア (CVIM)	向川康博 (61)	587
コンピュータと教育 (CE)	西田知博 (51)	542
人文科学とコンピュータ (CH)	山田太造 (26)	214
音楽情報科学 (MUS)	吉井和佳 (29)	330
音声言語情報処理 (SLP)	峯松信明 (25)	215
電子化知的財産・社会基盤 (EIP)	金子 格 (19)	108
ゲーム情報学 (GI)	鶴岡慶雅 (26)	228
エンタテインメントコンピューティング (EG)	長谷川晶一 (25)	194
バイオ情報学 (BIO)	吉本潤一郎 (15)	118
教育学習支援情報システム (OLE)	梶田将司 (21)	200
アクセシビリティ (AAC)	馬場哲晃 (16)	60
*ネットワーク生態学 (NE)	林 幸雄 (—)	—
*会員の力を社会につなげる (SSR)	筧 捷彦 (—)	—
*情報処理に関する法的問題 (LIP)	高岡詠子 (—)	—

1. 研究発表会（調査研究活動分）

1.1 コンピュータサイエンス領域

1.1.1 データベースシステム研究発表会

回次	開催年月	場所	発表件数	参加者数	共催団体、その他備考
第165回	2017年9月18日～20日	お茶の水女子大学	33	315	電子情報通信学会
第166回	2017年12月22日～23日	国立情報学研究所	22	26	電子情報通信学会

1.1.2 ソフトウェア工学研究発表会

第196回	2017年7月19日～21日	函館コミュニティラヂ	29	72	電子情報通信学会
第197回	2017年11月9日～10日	熊本大学	11	18	
第198回	2018年3月9日～10日	芝浦工業大学	39	80	

1.1.3 システム・アーキテクチャ研究発表会

第218回	2017年5月22日～24日	登別温泉 第一滝本館	19	57	電子情報通信学会
第219回	2017年7月26日～28日	アトリオン	40	138	電子情報通信学会
第220回	2017年11月7日～8日	くまもと県民交流館ハレ7	15	115	電子情報通信学会
第221回	2018年1月18日～19日	慶應義塾大学日吉キャンパス	29	128	電子情報通信学会
第222回	2018年3月7日～8日	隠岐の島文化会館	48	138	電子情報通信学会

1.1.4 システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究発表会

第140回	2017年5月16日～17日	ホテル沖縄パ&リゾート	19	39	
第141回	2017年7月26日～27日	アトリオン	24	73	
第142回	2018年2月27日～28日	北海道大学	16	34	

1.1.5 システムとLSIの設計技術研究発表会

第180回	2017年5月10日	北九州国際会議場	6	15	電子情報通信学会
第181回	2017年11月6日～8日	くまもと県民交流館ハレ7	47	136	電子情報通信学会
第182回	2018年1月18日～19日	慶應義塾大学日吉キャンパス	29	121	電子情報通信学会
第183回	2018年3月7日～8日	隠岐の島文化会館	48	128	電子情報通信学会

1.1.6 ハイパフォーマンスコンピューティング研究発表会

第159回	2017年4月17日	東京大学柏キャンパス	9	58	
第160回	2017年7月26日～28日	アトリオン	40	153	
第161回	2017年9月19日～20日	函館北洋ビル 8F大ホール	16	50	
第162回	2017年12月18日～19日	くまもと県民交流館ハレ7	25	68	
第163回	2018年2月28日～3月2日	ひめぎんホール	29	86	

1.1.7 プログラミング研究発表会

第114回	2017年6月8日～9日	静岡県総合社会福祉会館ソラウエル	7	29	
第115回	2017年7月28日	アトリオン	9	33	
第116回	2017年11月1日～2日	法政大学小金井キャンパス	7	28	
第117回	2018年1月15日～16日	高知工科大学	7	24	
第118回	2018年2月28日～3月1日	東京工業大学	11	50	

1.1.8 アルゴリズム研究発表会

第163回	2017年5月12日～13日	長崎県建設総合会館	16	57	電子情報通信学会
第164回	2017年9月19日	京都大学吉田キャンパス	5	17	
第165回	2017年11月16日～17日	日立中央研究所	28	64	電子情報通信学会
第166回	2018年1月28日～29日	石垣島 大濱信泉記念館	12	56	併催：人工知能学会
第167回	2018年3月8日	カボトホール高松	11	21	

1.1.9 数理モデル化と問題解決研究発表会

第113回	2017年6月23日～25日	沖縄科学技術大学院大学	50	26	電子情報通信学会
第114回	2017年7月17日	Monte Carlo	12	14	
第115回	2017年9月25日～26日	北海道大学	17	32	
第116回	2017年12月11日～12日	奈良女子大学	17	39	
第117回	2018年3月1日～2日	指宿市民会館	24	49	

1.1.10 組込みシステム研究発表会

第45回	2017年6月30日	東海大学 高輪キャンパス	8	9	
第46回	2017年11月6日～8日	くまもと県民交流館ハレ7	47	113	電子情報通信学会
第47回	2018年3月7日～8日	隠岐の島文化会館	48	138	電子情報通信学会

1.2 情報環境領域

1.2.1 マルチメディア通信と分散処理研究発表会

第171回	2017年6月1日～2日	北谷美浜リゾートステーション	36	22	電子情報通信学会
第172回	2017年11月29日～30日	海峡メッセ下関	27	32	
第173回	2018年1月18日～19日	国民宿舎 桂浜荘	11	27	
第174回	2018年3月5日～6日	NTTデータ 豊洲センタービル	36	30	

1.2.2 ヒューマンコンピュータインタラクション研究発表会

第173回	2017年6月1日～2日	東京大学弥生講堂	31	98	電子情報通信学会/ヒューマンインタフェース学会
第174回	2017年8月23日～24日	聖護院御殿荘	16	28	
第175回	2017年11月1日～2日	淡路夢舞台国際会議場	18	21	
第176回	2018年1月22日～23日	琉球大学	24	49	
第177回	2018年3月16日～17日	明治大学中野キャンパス	34	85	

1.2.3 コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学研究発表会

第167回	2017年9月19日	ティ・エヌ・エー	10	37	
第168回	2017年11月8日～9日	北海道大学	40	55	
第169回	2018年3月3日	phi	19	46	

1.2.4 情報システムと社会環境研究発表会

第140回	2017年6月3日	青山学院大学	4	18	
第141回	2017年8月25日～26日	佐賀大学鍋島キャンパス	11	22	
第142回	2017年12月2日	東京工科大学蒲田キャンパス	9	25	
第143回	2018年3月5日～6日	専修大学	13	28	

1.2.5 情報基礎とアクセス技術研究発表会

第127回	2017年7月22日	東京大学駒場第1キャンパス	7	31	併催：人工知能学会
第128回	2017年9月18日～20日	お茶の水女子大学	33	271	電子情報通信学会
第129回	2018年2月16日～17日	ティ・オー・ジィ会議室	15	12	電子情報通信学会
第130回	2018年3月27日	東京工業大学	9	9	

1.2.6 オーディオビジュアル複合情報処理研究発表会

第97回	2017年8月3日	NHK放送技術研究所 講堂	7	57	映像情報メディア学会/電子情報通信学会
第98回	2017年10月12日～13日	東大寺総合文化センター	14	46	電子情報通信学会
第99回	2017年11月30日～12月1日	名古屋大学 東山キャンパス	23	90	映像情報メディア学会/電子情報通信学会
第100回	2018年3月6日～7日	沖縄セルラー電話	22	25	

1.2.7 グループウェアとネットワークサービス研究発表会

第102回	2017年5月11日～12日	日本大学文理学部オハル・ホール	13	37	電子情報通信学会
第103回	2018年1月26日～27日	巖原地区公民館	46	28	
第104回	2018年3月19日～20日	筑波大学	20	37	

1.2.8 ドキュメントコミュニケーション研究発表会

第105回	2017年7月6日	印刷博物館グーテンベルクホール	10	11	電子情報通信学会
第106回	2017年10月4日	広島大学東京オフィス	2	7	
第107回	2017年11月30日	セコム本社セコムホール	7	29	
第108回	2018年3月27日	東京工業大学	9	18	

1.2.9 モバイルコンピューティングとパーベシブシステム研究発表会

第83回	2017年6月1日～2日	北谷美浜デｲｽﾃｰｼﾞｮﾝ	36	33	電子情報通信学会
第84回	2017年8月29日～30日	東京電機大学東京千住ｷﾝﾊﾟｽ	22	38	
第85回	2017年11月15日～17日	東北大学電気通信研究所	30	44	
第86回	2018年2月26日～27日	上智大学四谷ｷﾝﾊﾟｽ	52	77	電子情報通信学会

1.2.10 コンピュータセキュリティ研究発表会

第77回	2017年5月25日～26日	高知工科大学	16	46	電子情報通信学会
第78回	2017年7月14日～15日	内田洋行東京ｼﾞｮｰﾙﾑ	46	79	電子情報通信学会
第79回	2017年12月4日～5日	九州大学伊都ｷﾝﾊﾟｽ	11	39	
第80回	2018年3月5日～6日	NTTﾃﾞｰﾀ 豊洲ｾﾝﾀｰﾍﾞﾙ	36	57	

1.2.11 高度交通システムとスマートコミュニティ研究発表会

第69回	2017年6月1日～2日	北谷美浜デｲｽﾃｰｼﾞｮﾝ	36	15	電子情報通信学会
第70回	2017年9月4日～5日	富山県総合情報ｾﾝﾀｰ	11	27	電子情報通信学会/電気学会
第71回	2017年11月15日～17日	東北大学電気通信研究所	30	44	
第72回	2018年3月8日～9日	島根大学松江ｷﾝﾊﾟｽ	10	26	

1.2.12 ユビキタスコンピューティングシステム研究発表会

第54回	2017年5月25日～26日	北九州ｲﾝﾊﾞｰｼﾞｮﾝｷﾞﾏﾘｰ	24	27	
第55回	2017年8月24日～25日	名古屋大学	16	20	
第56回	2017年11月1日～2日	淡路夢舞台国際会議場	18	19	
第57回	2018年2月26日～27日	上智大学四谷ｷﾝﾊﾟｽ	52	90	電子情報通信学会

1.2.13 インターネットと運用技術研究発表会

第37回	2017年5月25日～26日	高知工科大学	16	63	電子情報通信学会
第38回	2017年6月24日	徳島大学常三島ｷﾝﾊﾟｽ	16	60	
第39回	2017年9月29日	埼玉大学総合研究棟	14	44	
第40回	2018年3月5日～6日	鬼怒川温泉ﾍﾞﾙ	49	69	電子情報通信学会

1.2.14 セキュリティ心理学とトラスト研究発表会

第23回	2017年5月11日～12日	日本大学文理学部	13	21	電子情報通信学会
第24回	2017年7月14日～15日	内田洋行東京本社ｼﾞｮｰﾙﾑ	46	17	電子情報通信学会
第25回	2017年9月29日	埼玉大学総合研究棟	14	15	
第26回	2017年11月29日～30日	海峡ﾏﾃﾞ下関	27	23	
第27回	2018年3月7日～8日	沖縄北部雇用能力開発総合ｾﾝﾀｰ	38	75	電子情報通信学会

1.2.15 コンシューマ・デバイス&システム研究発表会

第19回	2017年5月25日～26日	北九州ｲﾝﾊﾞｰｼﾞｮﾝｷﾞﾏﾘｰ	24	34	
第20回	2017年8月29日～30日	東京電機大学東京千住ｷﾝﾊﾟｽ	22	44	
第21回	2018年1月26日～27日	巖原地区公民館	46	46	

1.2.16 デジタルコンテンツクリエイション研究発表会

第16回	2017年5月26日	東京工科大学八王子ｷﾝﾊﾟｽ	7	33	
第17回	2017年11月8日～9日	北海道大学	40	51	
第18回	2018年1月26日～27日	巖原地区公民館	46	17	

1.2.17 高齢社会デザイン研究発表会

第8回	2017年6月19日	東京大学	5	34	
第9回	2017年8月24日～25日	名古屋大学	16	18	
第10回	2017年11月18日	静岡県立大学草薙ｷﾝﾊﾟｽ	12	33	
第11回	2018年3月16日	東京ﾋﾞｯｸﾞｲｯﾄ	8	35	

1.3 メディア知能情報領域

1.3.1 自然言語処理研究発表会

第231回	2017年5月15日～16日	大阪大学中之島キャンパス	26	60	
第232回	2017年7月19日～20日	首都大学東京	13	72	
第233回	2017年10月24日～25日	宮古島市中央公民館	17	35	
第234回	2017年12月20日～21日	早稲田大学	26	92	電子情報通信学会

1.3.2 知能システム研究発表会

第188回	2017年7月20日	(株)LIFULL	8	22	
第189回	2017年8月5日	国際高等セミナーハウス	6	11	
第190回	2018年3月4日	北海道リゾートホテル	10	13	併催：人工知能学会, 電子情報通信学会
第191回	2018年3月26日	静岡大学浜松キャンパス	11	15	

1.3.3 コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会

第207回	2017年5月10日～11日	名古屋大学	44	66	
第208回	2017年9月15日～16日	東京大学	36	64	電子情報通信学会
第209回	2017年11月8日～9日	北海道大学	40	77	
第210回	2018年1月18日～19日	大阪府立大学	60	65	電子情報通信学会/パッチャリリティ学会
第211回	2018年3月1日～2日	立命館大学びわこ・くさつキャンパス	16	61	

1.3.4 コンピュータと教育研究発表会

第140回	2017年7月8日	東北大学付属図書館	10	42	
第141回	2017年11月3日～4日	台湾師範大学	13	23	
第142回	2017年12月8日～10日	松山大学	31	61	電子情報通信学会
第143回	2018年2月17日～18日	武庫川女子大学	26	95	
第144回	2018年3月17日～18日	獨協大学	30	85	

1.3.5 人文科学とコンピュータ研究発表会

第114回	2017年5月13日	龍谷大学7Fパーティ響都ホール	13	53	
第115回	2017年8月4日	東京大学	15	44	
第116回	2018年1月27日	函館コミュニティプラザ	21	64	

1.3.6 音楽情報科学研究発表会

第115回	2017年6月17日～18日	お茶の水女子大学	60	238	
第116回	2017年8月24日～26日	はこだて未来大学	23	59	
第117回	2017年11月25日	日本大学	5	44	
第118回	2018年2月20日～21日	筑波山 江戸屋旅館	38	100	

1.3.7 音声言語情報処理研究発表会

第116回	2017年5月15日～16日	大阪大学中之島キャンパス	26	52	
第117回	2017年7月27日～28日	秋保温泉ホテルセント	12	56	併催：電子情報通信学会
第118回	2017年10月13日	早稲田大学	10	89	併催：人工知能学会
第119回	2017年12月21日～22日	早稲田大学	24	137	電子情報通信学会
第120回	2018年2月20日～21日	筑波山江戸屋旅館	38	88	

1.3.8 電子化知的財産・社会基盤研究発表会

第76回	2017年5月31日～6月1日	放送大学	13	21	電子情報通信学会
第77回	2017年9月6日	新潟大学「ときめいと」	12	20	
第78回	2017年11月29日～30日	海峡メッセ下関	27	30	
第79回	2018年2月16日	京都佛教学大学二条キャンパス	14	24	

1.3.9 ゲーム情報学研究発表会

第38回	2017年7月15日	倉敷市芸文館	11	31	
第39回	2018年3月2日	東京大学生産技術研究所	16	49	

1.3.10 エンタテインメントコンピューティング研究発表会

第44回	2017年6月1日～2日	東京大学弥生講堂	31	85	電子情報通信学会/ヒューマンインタフェース学会
第45回	2017年8月21日～22日	国民宿舎小豆島	4	10	
第46回	2017年12月22日～23日	グランフロント大阪	11	63	
第47回	2018年3月16日～17日	電気通信大学	12	22	

1.3.11 バイオ情報学研究発表会

第50回	2017年6月23日～25日	沖縄科学技術大学院大学	50	26	電子情報通信学会
第51回	2017年9月26日	北海道大学	12	22	
第52回	2017年12月4日	東京工業大学	4	6	
第53回	2018年3月9日～10日	北陸先端科学技術大学院大学	13	29	

1.3.12 教育学習支援情報システム研究発表会

第22回	2017年5月13日～14日	国立情報学研究所	3	141	教育システム情報学会/学習分析学会
第23回	2017年12月8日～10日	松山大学	31	42	電子情報通信学会
第24回	2018年3月21日～22日	京都大学学術情報メディアセンター	26	78	

1.3.13 アクセシビリティ研究発表会

第4回	2017年8月26日～27日	国立情報学研究所	14	50	
第5回	2017年12月8日～9日	首都大学東京	15	51	
第6回	2018年3月9日～10日	筑波技術大学春日キャンパス	36	33	電子情報通信学会

2. シンポジウム等

2.1 調査研究活動分

名称	開催年月	場所	演題数	参加数
The 1st. cross-disciplinary Workshop on Computing Systems, Infrastructures, and Programming (xSIG 2017)	2017年4月24日～26日	虎ノ門ヒルズフォーラム	48	154
ハイパフォーマンスコンピューティングと計算科学シンポジウム (HPCS2017)	2017年6月5日～6日	神戸大学先端融合研究環統合研究拠点	20	106
マルチメディア、分散、協調とモバイル (DICOM02017) シンポジウム	2017年6月28日～30日	定山溪万世閣ホテル ミリオナー	272	419
第20回画像の認識・理解シンポジウム (MIRU2017)	2017年8月7日～10日	広島国際会議場	254	663
情報教育シンポジウム2017 (SSS2017)	2017年8月17日～19日	ウィシュトンホテル・ユーカーリ	47	108
組込みシステムシンポジウム2017 (ESS2017)	2017年8月24日～25日	下呂温泉水明館	41	92
ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2017 (SES2017)	2017年8月30日～9月1日	早稲田大学GCS	57	162
DAシンポジウム2017	2017年8月30日～9月1日	山代温泉 ゆのくに天祥	45	110
エンタテインメントコンピューティングシンポジウム (EG2017)	2017年9月16日～18日	東北大学 電気通信研究所	100	274
第10回Webとデータベースに関するフォーラム (WebDB Forum 2017)	2017年9月18日～20日	お茶の水女子大学	149	273
第25回マルチメディア通信と分散処理ワークショップ (DPSWS2017)	2017年10月11日～13日	北海道温根湯温泉 大江本家	42	73
コンピュータセキュリティシンポジウム (CSS2017)	2017年10月23日～25日	山形国際ホテル	221	733
SOUPS2017論文読破会	2017年11月2日	SECOM本社 セコムホール	17	34
ゲームプログラミングワークショップ2017 (GPW2017)	2017年11月10日～12日	箱根セミナーハウス	41	97
グループウェアとネットワークサービスワークショップ2017	2017年11月16日～17日	かみのやま温泉 仙楽園 月岡ホテル	16	33
第29回コンピュータシステム・シンポジウム (ComSys2017)	2017年12月5日～7日	富士通研究所 セミナールーム	31	58
第10回インターネットと運用技術シンポジウム (IOTS2017)	2017年12月7日～8日	熊本市国際交流会館	17	76
組込みシステムワークショップ2017 (ESW2017)	2017年12月9日	東海大学 高輪キャンパス	9	23
人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん2017)	2017年12月9日～10日	大阪市立大学 学術情報総合センター	39	119
高度交通システム研究フォーラム2017	2016年12月14日	静岡大学浜松キャンパス	24	81
災害コミュニケーションシンポジウム	2016年12月26日	和歌山県立情報交流センタービッグ・ユー	13	16
ウインターワークショップ2018・イン・宮島	2018年1月18日～19日	宮島コーラルホテル	50	75
Game AI Tournament 2018 (GAT2018)	2018年3月4日	電気通信大学	4	51
インタラクシオン2018	2018年3月5日～7日	学術総合センター	255	715

2.2 教育活動分

高校教科「情報」シンポジウム2017秋 —ジョーシン2017—	2017年10月28日	早稲田大学 西早稲田キャンパス	7	78
------------------------------------	-------------	--------------------	---	----

3. 事業活動

3.1 全国大会

名称	開催年月	場所	一般講演	招待講演	参加数
第80回全国大会	2018年3月13日～15日	早稲田大学 西早稲田キャンパス	1,285	5	3,070

3.2 FIT (情報科学技術フォーラム)

FIT2017 第16回情報科学技術フォーラム	2017年9月12日～14日	東京大学本郷キャンパス	469	1	1,505
-------------------------	----------------	-------------	-----	---	-------

※共催：電子情報通信学会（情報・システムソサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループ）

3.3 連続セミナー2017：テーマ「イノベーション最前線：2020年を超えて生き抜くための技術を探る」

名称	開催年月	場所	演題数	本会場参加数	遠隔会場参加数
加速するオープン・サービス・イノベーション	2017年6月7日	本会場：日本大学 遠隔会場：大阪大学 中之島センター	5	71	4
人工知能の基盤技術	2017年7月27日	本会場：化学会館 遠隔会場：大阪大学 中之島センター	5	123	38
人工知能技術（応用編）～社会実装の取り組みと課題～	2017年9月29日	本会場：日本大学 遠隔会場：大阪大学 中之島センター	6	116	19
ディープラーニングの活用と基盤	2017年10月17日		5	126	29
メディアアートの今：「それはメディアアートではない」でなく「それもメディアアートである」という時代へ	2017年11月10日	本会場：化学会館 遠隔会場：大阪大学 中之島センター	5	62	4
AR/VRの新展開	2017年12月11日		5	79	16

※協賛：映像情報メディア学会、照明学会、電子情報技術産業協会、電子情報通信学会、電気学会、情報サービス産業協会、人工知能学会

※後援：特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会

3.4 短期集中セミナー

名称	開催年月	場所	演題数	参加数	備考
ITガバナンスの国際規格（ISO/IEC 38500シリーズ）と今後の展開について～各国のITガバナンスの現状と国際標準の活用～	2017年6月3日	機械振興会館	3	109	※1,2

※1) 共催：認定NPO法人日本システム監査人協会

※2) 後援：日本ITガバナンス協会、ISACA東京支部、大阪支部、名古屋支部、福岡支部、システム監査学会、情報セキュリティ大学院大学、日本セキュリティ・マネジメント学会、金融情報システム開発センター

Exciting Coding! Junior 2017 スクラッチを使ってプログラミングを学ぼう!	2017年9月16日	青山学院大学	---	30組60名	
ワークプロダクトレビューの技術とプロセス ～レビュー技術・事例と標準化最新動向の紹介～	2017年10月18日	機械振興会館	5	56	※1,2

※1) 協賛：NPO法人ソフトウェアテスト技術振興協会、IT検証産業協会、日本科学技術連盟

※2) 後援：独立行政法人情報処理推進機構、特定非営利活動法人ITコーディネータ協会

プライバシーフレンドリーな社会に向けて	2017年11月30日	化学会館	6	41	※1,2
---------------------	-------------	------	---	----	------

※1) 協賛：電気学会、照明学会、電子情報通信学会、映像情報メディア学会

※2) 後援：特定非営利活動法人ITコーディネータ協会

3.5 プログラミング・シンポジウム

名称	開催年月	場所	演題数	参加数
夏のプログラミング・シンポジウム2017	2017年9月1日～3日	ホテルラフォーレ修善寺	5	10
第50回情報科学若手の会	2017年10月7日～9日	山喜旅館	15	44
第59回プログラミング・シンポジウム	2018年1月19日～21日	ラフォーレ倶楽部 伊東温泉湯の庭	22	87

3.6 IPSJ International AI Programming Contest

名称	開催年月	場所	チーム数	参加数	備考
Samurai Coding 2017-18 (Final Round)	2018年3月14日	早稲田大学西早稲田キャンパス	16	20	※

※) 協賛：情報サービス産業協会、電子情報技術産業協会、電子情報通信学会、人工知能学会、日本ソフトウェア科学会、日本情報システム・ユーザー協会、情報科学国際交流財団、IEEE Computer Society、IEEE Computer Society Tokyo/Japan Joint Chapter、IEEE Japan Office、The Korean Institute of Information Scientists and Engineers、China Computer Federation

後援：文部科学省、総務省、経済産業省、情報処理推進機構

ゴールドスポンサー：いい生活、日立製作所

サポーター：日本レジストリサービス、富士通

4. 技術応用活動

4.1 個別ITフォーラム (6件)

名称	代表者名
サービスサイエンス	諏訪良武
ユニバーサルデザイン協創	菟川友宏
コンタクトセンター	河合 洋
ビッグデータ活用実務	石井一夫
GITP	平林元明
勉強会	河口信夫

4.2 ITフォーラム関連のイベント

名称	開催年月	場所	演題数	参加数	備考
ソフトウェアジャパン2018 「ITが変える社会・生活・仕事」	2018年2月2日	一橋大学一橋講堂会議室 ・学術総合センターNII	5	643	※1.2

- ※1) 協賛：日本計量生物学会、人電気学会、日本情報システム・ユーザー協会、日本統計学会、応用統計学会、照明学会、映像情報メディア学会、日本計算機統計学会、日本技術士会、電子情報通信学会、情報計量化学生物学会、人工知能学会、日本ソフトウェア科学会、情報サービス産業協会、電子情報技術産業協会、情報通信研究機構、先端IT活用推進コンソーシアム、自動車技術会、国立情報学研究所、データサイエンティスト協会、情報通信技術委員会、インターネット協会
後援：文部科学省、経済産業省、総務省、情報処理推進機構、スポンサー：6口、サポーター：25口、出展：1口、メディア出展：2口
※2) 招待講演5件のほか、パネル討論、SJアワード・デジタルプラクティス論文賞セレモニー、ITフォーラム6件（他団体連携2件（IPA・AITC））を開催

5. 支部活動（※役員会等は除く）

5.1 北海道支部

- ・情報処理北海道シンポジウム2017（10月7日、北海道大学） 演題数47件、参加者数160名

5.2 東北支部

- ・電気関係学会東北支部連合大会（8月24日～25日、弘前大学） 演題数242件、参加者445名
- ・支部研究会 7回（11月30日-12月1日、12月8日、12月16日、18年1月20日、2月10日、2月19日、3月9日）
- ・支部講演会 6回（6月7日、6月26日、11月15日、12月6日、12月18日、18年1月5日）

5.3 東海支部

- ・電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会（9月7-8日、名古屋大学） 演題数448件、参加者数920名
- ・講演会 6回（5月26日、7月10日、10月11日、11月24日、12月4日、18年1月29日）
- ・研究会 15回（協賛等）
- ・学生研究発表助成 1件

5.4 北陸支部

- ・特別講演会 1回（5月19日）
- ・研究講演会 1回（18年1月17日）
- ・電気関係学会北陸支部連合大会（9月11日、富山大学） 演題数245件、参加者数478名
- ・北陸地区学生による研究発表会（18年3月4日、金沢工業高専）

5.5 関西支部

- ・関西支部支部大会（9月25日、大阪大学中之島センター） 演題数99件、参加者数173名
- ・支部研究会：社会知能研究会 1回（9月25日）、グリーン組込みコンピューティング研究会 1回（9月25日）、ネットワークサービス研究会 1回（9月25日）、プログラミング・情報教育研究会 4回（8月3日、8月16日、9月25日、18年3月）
- ・行動変容と社会システム研究会 3回（6月26日、9月25日、3月1-4日）
- ・支部セミナー 3回（7月30日、6月16日・28日、11月29日）
- ・講演会 1回（11月24日）
- ・連続セミナー2017（遠隔会場） 6回（6月7日、7月27日、9月29日、10月1日、11月10日、12月11日）

5.6 中国支部

- ・電気・情報関連学会中国支部連合大会（10月21日、岡山理科大学） 演題数240件、参加者数478名
- ・講演会11回（4月6日、5月24日、9月15日、10月23日、11月10日、12月1日、12月1日、12月15日、18年2月2日、2月7日、2月19日）
- ・講習会 3回（11月14日、12月5日、12月14日）

5.7 四国支部

- ・電気系学会四国支部連合大会（9月23日、愛媛大学）参加者数412名
- ・共催事業 4回（9月2-3日、11月24日、18年2月12日、3月）
- ・講演会 6回（6月2日、6月30日、11月16日、11月17日、18年1月16日、1月23日）

5.8 九州支部

- ・電気関係学会九州支部連合大会（9月27-28日、琉球大学） 聴講者数624名
- ・火の国情報シンポジウム（'18年3月1-2日、長崎大学）
- ・講演会等 2回（8月31-9月1日、18年2月16日、3月26日）

付3. 刊行物（機関誌・図書）一覧

1. 会誌「情報処理」（月刊）

発行年月日	巻	号	特集テーマ	その他参考		
				記事数	本文頁数	広告頁数
2017年4月15日	58	5	チューリング賞50周年によせて／博士課程進学の特典・デメリット	50	115	6
2017年5月15日	58	6	ちょっと変わったプログラミング教室 ープログラミングで絵、音、3D物体を描こう、動かそうー	19	95	4
2017年6月15日	58	7	人流シミュレーション／「ロボットは東大に入れるか」という企て	32	107	6
2017年7月15日	58	8	ソフトウェア工学の最前線 ～ソフトウェアが社会のすべてを定義する時代～	39	105	8
2017年8月15日	58	9	農業ICTーIoT・ビッグデータ・AI 活用で農業を成長産業へー	60	101	4
2017年9月15日	58	10	情報教育とワークショップ	20	81	8
2017年10月15日	58	11	IoT時代のセーフティとセキュリティー日本の産業競争力の強化に向けてー／ACM チューリング賞50周年記念大会／プログラミング・エクスペリエンスの新潮流ー言語設計から産業応用までー	27	107	6
2017年11月15日	58	12	デジタルゲリマンダとは何かー選挙区割策略からフェイクニュースまでー／ファイルシステムとストレージ	20	107	6
2017年12月15日	59	1	私たちの未来／脳情報科学が拓くAIとICT	35	109	4
2018年1月15日	59	2	スマホプログラミング／進化し続けるコンピュータ将棋	22	107	6
2018年2月15日	59	3	LSIの配線問題-DAシンポジウムの配線問題解法コンテスト-	24	93	4
2018年3月15日	59	4	私のターニングポイントー私はこれでキャリアを決めましたー ／情報社会ー今そこにある課題ー	52	91	6

2. 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊）

※オンライン刊行のみ

発行年月日	巻	号	特集テーマ	その他参考		
				論文数	テクニカルノート数	本文頁数
2017年4月15日	58	4	ソフトウェア工学	14	1	177
2017年5月15日	58	5	インタラクションの理解および基盤・応用技術／情報システム論文	21	1	273
2017年6月15日	58	6	ネットワーク科学	8	0	82
2017年7月15日	58	7	---	3	0	35
2017年8月15日	58	8	組込みシステム工学	4	1	52
2017年9月15日	58	9	高度化するサイバー攻撃に対応するコンピュータセキュリティ技術	13	1	178
2017年10月15日	58	10	ユビキタス・コンピューティングシステム（VI）	15	0	180
2017年11月15日	58	11	エンタテインメントコンピューティング	8	0	87
2017年12月15日	58	12	私たちを取り巻く情報の信頼性とライフタイムを意識した安全な社会 基盤の確立に向けて	23	0	261
2018年1月15日	59	1	社会の知的化を先導するコラボレーション技術とネットワークサービス ／超スマート社会に向けた高度交通システムとモバイル通信	23	0	255
2018年2月15日	59	2	人文科学とコンピュータ／ネットワークサービスと分散処理／インタラクションの理解および基盤・応用技術／組込みシステム工学	51	1	565
2018年3月15日	59	3	若手研究者／運用でカバーする時代の終焉へ向けてのインターネット と運用技術	25	1	298

3. 「Journal of Information Processing (JIP)」(年刊)

※オンライン刊行のみ

発行年	巻	号	備考	その他参考		
				論文数	付加ノート数	本文頁数
2017年4月15日	25	—	トランザクション連携論文: 1	3	1	34
2017年5月15日	25	—	トランザクション連携論文: 0	4	1	46
2017年6月15日	25	—	トランザクション連携論文: 3	6	0	62
2017年7月15日	25	—	トランザクション連携論文: 2	6	0	55
2017年8月15日	25	—	トランザクション連携論文: 1 Special Issue of Discrete and Computational Geometry, Graphs, and Games Special Issue of Applications and the Internet in Conjunction with Main Topics of COMPSAC 2016	37	2	338
2017年9月15日	25	—	トランザクション連携論文: 0	3	1	36
2017年10月15日	25	—	トランザクション連携論文: 1	4	0	46
2017年11月15日	25	—	トランザクション連携論文: 1	1	0	11
2017年12月15日	25	—	トランザクション連携論文: 3	4	1	48
2018年1月15日	26	—	トランザクション連携論文: 2	7	0	72
2018年2月15日	26	—	トランザクション連携論文: 0 Special Issue of Advances in Collaboration Technologies	14	1	151
2018年3月15日	26	—	トランザクション連携論文: 3	12	1	121

4. 「情報処理学会論文誌(トランザクション)」(不定期、10誌)

※オンライン刊行のみ

発行年月日	巻	号	トランザクション名	その他参考	
				論文数	本文頁数
2017年6月16日	10	3	プログラミング	2	21
2017年7月21日	10	4	プログラミング	3	29
2017年11月14日	10	5	プログラミング	2	10
2017年12月12日	10	6	プログラミング	2	5
2018年2月8日	11	1	プログラミング	5	32
2017年7月19日	10	2	数理モデル化と応用	9	91
2017年12月13日	10	3	数理モデル化と応用	4	38
2018年3月14日	11	1	数理モデル化と応用	6	63
2017年6月28日	10	2	データベース	6	50
2017年10月5日	10	3	データベース	6	67
2017年12月13日	10	4	データベース	8	40
2017年5月25日	10	1	コンピューティングシステム	3	18
2017年9月11日	10	2	コンピューティングシステム	2	12
2017年11月14日	10	3	コンピューティングシステム	2	11
2018年3月14日	11	1	コンピューティングシステム	2	26
2017年5月25日	7	2	コンシューマ・デバイス&システム	14	134
2017年9月28日	7	3	コンシューマ・デバイス&システム	2	25
2018年1月30日	8	1	コンシューマ・デバイス&システム	4	47
2017年8月29日	5	2	デジタルコンテンツ	3	29
2018年2月28日	6	1	デジタルコンテンツ	3	27
2017年6月14日	3	2	教育とコンピュータ	6	62
2017年10月19日	3	3	教育とコンピュータ	4	43
2018年2月20日	4	1	教育とコンピュータ	8	92
2017年11月16日	10	-	Bioinformatics	1	6
2017年8月2日	10	-	System LSI Design Methodology	2	26
2018年2月23日	11	-	System LSI Design Methodology	2	27
2017年4月4日	9	-	Computer Vision and Applications	1	7

2017年4月8日	9	-	Computer Vision and Applications	1	13
2017年5月8日	9	-	Computer Vision and Applications	1	15
2017年6月2日	9	-	Computer Vision and Applications	2	17
2017年6月28日	9	-	Computer Vision and Applications	1	14
2017年7月26日	9	-	Computer Vision and Applications	2	25
2017年9月29日	9	-	Computer Vision and Applications	1	15
2017年11月10日	9	-	Computer Vision and Applications	2	24
2017年12月11日	9	-	Computer Vision and Applications	1	18
2017年12月15日	9	-	Computer Vision and Applications	1	17
2017年12月21日	9	-	Computer Vision and Applications	1	14
2017年12月22日	9	-	Computer Vision and Applications	1	12
2018年1月10日	10	-	Computer Vision and Applications	1	19
2018年1月16日	10	-	Computer Vision and Applications	1	11
2018年2月12日	10	-	Computer Vision and Applications	1	11
2018年2月20日	10	-	Computer Vision and Applications	1	14

5. 「情報処理学会デジタルプラクティス」(年4回)

発行年月日	巻	号	特集テーマ	その他参考	
				論文数	本文頁数
2017年4月15日	8	2	社会に浸透する画像認識	9	88
2017年7月15日	8	3	IoTシステムと組み込み技術	9	88
2017年10月15日	8	4	デザイン・アートとICTの融合によるサービスのイノベーション	10	94
2018年1月15日	9	1	オープンデータを活用した新しい社会	12	262

6. その他出版(新刊)

※判型：A5、委託出版社名：オーム社

発行年月	書籍名	発行部数	本文頁数
2017年8月21日	IT textシリーズ ネットワークセキュリティ(1版1刷)	1,500	206
2018年1月25日	IT textシリーズ オペレーティングシステム(改訂2版)(2版1刷)	2,000	260

7. その他出版(重版)

※判型：A5、委託出版社名：オーム社

発行年月	書籍名	発行部数	本文頁数
2017年4月7日	IT textシリーズ 情報セキュリティ(1版14刷)	400	288
2017年4月7日	IT textシリーズ コンピュータアーキテクチャ(1版13刷)	300	232
2017年4月10日	IT textシリーズ プログラム仕様記述論(1版11刷)	80	192
2017年4月10日	IT textシリーズ Linux演習(1版8刷)	300	224
2017年5月26日	IT textシリーズ 数値最適化(1版2刷)	300	272
2017年7月20日	IT textシリーズ 離散数学(1版4刷)	500	240
2017年7月20日	IT textシリーズ コンパイラとバーチャルマシン(1版13刷)	300	212
2017年7月26日	IT textシリーズ 人工知能(改訂2版)(2版2刷)	500	244
2017年8月30日	IT textシリーズ 認知インタフェース(1版12刷)	300	248
2017年9月8日	IT Textシリーズ(一般教育) 情報とコンピューティング(1版13刷)	253	228
2017年9月8日	IT Textシリーズ(一般教育) 情報と社会(1版10刷)	233	236
2017年9月20日	IT textシリーズ 自然言語処理(1版8刷)	127	192
2017年9月21日	IT textシリーズ プログラム仕様記述論(1版12刷)	105	210
2017年9月21日	IT textシリーズ 確率統計学(1版3刷)	137	264
2017年9月29日	IT textシリーズ 情報リテラシー(1版12刷)	104	248
2018年2月16日	IT textシリーズ 情報と職業(改訂2版)(2版3刷)	800	232
2018年2月26日	IT textシリーズ コンピュータアーキテクチャ(1版14刷)	600	232
2018年3月16日	IT textシリーズ データベース(1版16刷)	600	196

8. その他出版（新刊）

※判型：A5変形、委託出版社名：近代科学社

発行年月	書籍名	発行部数	本文頁数
2017年9月26日	IT研究者のひらめき本棚 ビブリア・トーク：私のオススメ（1版1刷）	2,000	142

付4. 国際会議一覧

※以下は、2017年度内に終了報告が完了した国際会議

名称	開催年月	場所	参加数	内 海外参加	海外 共催団体
The 11th International Workshop on Security (IWSEC2016)	2016年9月12日-14日	日本（東京）	107名	21名	---
The 9th International Conference on Mobile Computing and Ubiquitous Networking (ICMU2016)	2016年10月4日-6日	ドイツ（カイザースラウテルン）	57名	14名	・ IEICE CQR
35th International Conference on Conceptual Modeling (ER2016)	2016年11月14日-17日	日本（岐阜）	148名	93名	・ ERSC
22nd Asia and South Pacific Design Automation Conference 2017 (ASP-DAC2017)	2017年1月16日-19日	日本（千葉）	397名	221名	・ IEEE CAS ・ IEEE CEDA ・ ACM SIGDA

付5. 表彰等 *いずれも所属（ ）内は選定当時、掲載は順不同、敬称略

1. 新名誉会員（2名） [2018年度定時総会（2018年6月）表彰] [理事会（2018年1月）]

- ・都倉信樹（元大阪電通大）
- ・山田昭彦（元東京都立大）

2. 功績賞（3名） [2018年度定時総会（2018年6月）表彰] [功績賞選定委員会（2018年3月）]

- ・岡田謙一（慶大）
- ・富田達夫（IPA）
- ・安浦寛人（九大）

3. 新フェロー（8名） [2018年度定時総会（2018年6月）表彰] [フェロー選定委員会（2018年2月）]

- ・相原玲二（広島大） 「インターネットおよびネットワーク運用技術の発展と地域活性化に対する貢献」
- ・阿野茂浩（KDDI） 「広帯域インターネットにおける高速通信手法の開発」
- ・伊藤孝行（名工大） 「マルチエージェントシステムによる協調と合意形成のための基礎理論および応用技術の開発」
- ・稲村 浩（はこだて未来大） 「モバイルネットワークとスマートデバイスに関する研究開発および学会運営への貢献」
- ・清原良三（神奈川工科大） 「携帯電話など組み込み機器のソフトウェア更新技術の研究、製品実用化および学会運営への貢献」
- ・中田登志之（東大） 「並列分散処理システムの研究開発および学会運営への貢献」
- ・中村 哲（奈良先端大） 「自動音声翻訳技術の研究と実用化に対する貢献」
- ・西垣正勝（静岡大） 「人間学的側面からの情報セキュリティ技術の強化に関する研究への貢献」

4. 論文賞（6件27名） [2018年度定時総会（2018年6月）表彰] [論文賞選定委員会（2018年2月）]

(1) 情報処理学会論文賞

- ・直近移動能力を考慮した車椅子操作推定モデル
宮田章裕（日大）、伊勢崎隆司、中野将尚、石原達也、有賀玲子、望月崇由、渡部智樹、水野 理（NTT）
- ・Toolification of Games: 既存ゲームの余剰自由度の中で非ゲーム的目的を達成するゲーミフィケーション周辺概念の提案と検討
栗原一貴（津田塾大）
- ・改版履歴の分析に基づく変更支援手法における時間的近接性の考慮と同一作業コミットの統合による影響
森 達也、アンダース ハグワード、小林隆志（東工大）
- ・鉱山用重機間通信による周辺重機検出手法の提案
長船辰昭（日立）、西村友佑（阪大）、加藤聖也（日立）、廣森聡仁、山口弘純、東野輝夫（阪大）

(2) Journal of Information Processing Outstanding Paper Award

- ・A Hierarchical Secret Sharing Scheme over Finite Fields of Characteristic 2
Koji Shima, Hiroshi Doi（情報セキュリティ大学院大）

(3) 情報処理学会論文誌 データベース 優秀論文賞

- ・In-vehicle Distributed Time-critical Data Stream Management System for Advanced Driver Assistance
Akihiro Yamaguchi, Yousuke Watanabe（名大）、Kenya Sato（名大/同志社大）、Yukikazu Nakamoto（名大/兵庫県立大）、Yoshiharu Ishikawa, Shinya Honda, Hiroaki Takada（名大）

5. 業績賞（3件15名、*：代表貢献者） [2018年度定時総会（2018年6月）表彰] [業績賞選定委員会（2018年3月）]

- ・「音声対話型AI帳票を実現する現場作業支援ソリューション」
*田淵仁浩、坂口基彦、服部浩明、奥村明俊、古明地秀治（NECソリューションイノベータ）
- ・「音声マイニング技術の研究開発と実用化」
*浅見太一、野本済央（NTT研）、河村誠司、荒井和博、町田健一（NTTテクノクロス）
- ・「テキストマイニング技術の実用化及びその多言語化と国際的な普及」
*那須川哲哉、金山 博、吉田一星、宅間大介、米谷雅樹（日本IBM）

- ・松谷宏紀 (慶大) 「チップ内からデータセンタ規模に至るマルチスケールな相互結合網の研究」
- ・吉田悠一 (NII) 「定数時間アルゴリズムの研究」

<コンピュータサイエンス領域>

- ・コンテンツの人気度を考慮したN次創作活動のモデル化 [データベースシステム] 佃 洸撰 (産総研)
- ・クラウド環境におけるデータベースライブマイグレーションミドルウェア [データベースシステム] 三島 健 (NTT)
- ・編集スクリプトへのコピーアンドペースト操作の導入によるコード差分の理解向上の試み [ソフトウェア工学] 肥後芳樹 (阪大)
- ・ソフトウェア保守のためのデータアクセス可視化技術の検討 [ソフトウェア工学] 矢野啓介 (富士通研)
- ・電力性能効率に優れた二値化ディープニューラルネットワークの FPGA 実装 [システム・アーキテクチャ] 米川晴義 (東工大)
- ・自然エネルギーによる低電力リコンフィギュラブルアクセラレータの動作 [システム・アーキテクチャ] 畔上佳太 (慶大)
- ・リソース分離アーキテクチャのためのアクセラレータミドルウェアVictreamの提案 [システムソフトウェアとオペレーティング・システム] 鈴木 順 (NEC)
- ・順序回路の時間展開を用いた前方順序のクロックゲーティングの自動挿入について [システムとLSIの設計技術] 木村晋二 (早大)
- ・ネットの特徴量を用いた多層ニューラルネットワークによるハードウェアトロイ識別 [システムとLSIの設計技術] 長谷川健人 (早大)
- ・Flashを用いたOut-of-coreステンシル計算のための最適ブロッキングパラメタ自動チューニングシステム [ハイパフォーマンスコンピューティング] 緑川博子 (成蹊大)
- ・直接天然水冷コンピュータへの第一歩 [ハイパフォーマンスコンピューティング] 藤原一毅 (NICT)
- ・Concurrent Program Logic for Relaxed Memory Consistency Models with Dependencies across Loop Iterations [プログラミング] 安部達也 (千葉工大)
- ・グラフ部分構造列挙のためのゼロサプレス型項分岐決定図の効率的な構築法 [アルゴリズム] 西野正彬 (NTT)
- ・Memoryとフェロモンに関するルールの改良を行ったMAX-MIN Ant System with Memory [数理モデル化と問題解決] 磯崎敬志 (富士通)
- ・制御性能要求情報に基づいたエンジン制御ソフトの並列性向上手法 [組込みシステム] 福田 毅 (日立)

<情報環境領域>

- ・仮想化された機器監視アプリケーションの計測時刻の誤差推定手法 [マルチメディア通信と分散処理] 金子 雄 (東芝)
- ・ポロノイ図を用いた移動センサノードのための巡回経路探索アルゴリズムの提案 [マルチメディア通信と分散処理] 山本真也 (山口東理大)
- ・導電繊維編み込み手袋を用いた指の曲げ計測手法 [ヒューマンコンピュータインタラクション] 高田峻介 (筑波大)
- ・連結した直線経路をステアリングする動作の分析とモデル化 [ヒューマンコンピュータインタラクション] 山中祥太 (ヤフー)
- ・折りたたみ可能な切開刃を含む立体形状の設計 [コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学] 加瀬悠人 (ミズノ)
- ・熊本地震における避難所の同定手法の提案とそれを用いた支援政策に関する研究 [情報システムと社会環境] 船越康希 (NTT西日本)
- ・画素毎の動き推定に基づく時間外挿フレームを用いた複数参照フレーム動き補償予測 [オーディオビジュアル複合情報処理] 亀田裕介 (東理大)
- ・調理履歴に基づくユーザのレシピ選択モデルの提案 [グループウェアとネットワークサービス] 山本修平 (NTT)
- ・ISO22320に基づく組織の危機対応力の可視化と考察 [グループウェアとネットワークサービス] 爰川知宏 (NTT)
- ・ドキュメントとしてのオープンデータ [ドキュメントコミュニケーション] 本田正美 (東工大)
- ・長期的な状態依存性を考慮した移動軌跡からの目的地予測 [モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム] 遠藤結城 (筑波大)
- ・Preliminary Investigation on Using Deep Learning to Evaluate Toothbrushing Performance with Smartphone Audio [モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム] Joseph Korpela (阪大)
- ・まぜるな危険準同型暗号 [コンピュータセキュリティ] 江村恵太 (NICT)
- ・標的組織の内部情報を有する攻撃者を前提としたセキュリティアプライアンス評価 [コンピュータセキュリティ] 田辺瑠偉 (横浜国大)
- ・公共施設における人流誘導のための動的案内サインの検討 [ユビキタスコンピューティングシステム] 片岡春乃 (NTTサービスエボリューション研)
- ・テレメトリングのためのRADIUSメッセージングの一考察 [インターネットと運用技術] 松本直人 (さくらインターネット)
- ・イベントネットワークにおけるsyslogを用いた異常検知手法の提案と実データを用いた評価 [インターネットと運用技術] 阿部 博 (IIJイノベーションインスティテュート)

・ジョニーはまだ暗号化できない? :暗号化とユーザビリティに関する研究の調査 [セキュリティ心理学とトラスト]

緑川達也 (東邦大)

・Identity Confirmation to Issue Tickets using Face Recognition [コンシューマ・デバイス&システム]

奥村明俊 (NECソリューションイノベータ)

・影内部映像に対するインタラクションの提案 [デジタルコンテンツクリエイション]

岩崎妃呂子 (愛知工大)

・高齢者の多様な体感を考慮した空調制御のための発話行動センシング [高齢社会デザイン]

桐山伸也 (静岡大)

<メディア知能情報領域>

・無限木構造隠れMarkovモデルによる階層的品詞の教師なし学習 [自然言語処理]

持橋大地 (統計数理研)

・地方自治体間の情報共有を目的とした大規模合意形成支援システムの有効性 - AICHI街づくりデザインリーグを事例とする - [知能システム]

深町駿平 (清水建設)

・プロジェクト投影光の時間積分に基づく運動情報の映像化 [コンピュータビジョンとイメージメディア]

坂上文彦 (名工大)

・超音波振動による物体表面の法線方向の変化を利用した粘弾性の推定 [コンピュータビジョンとイメージメディア]

青砥隆仁 (NII)

・データ従事者の育成を目的としたデータ・リテラシー教育の試み [コンピュータと教育]

中鉢直宏 (帝京大)

・俯瞰カメラと移動ロボットを用いたフィードバック制御系の可視化の試みと評価 [コンピュータと教育]

疋田真一 (大阪電通大)

・学習を動機付けに利用した前近代災害史料のクラウドソーシング翻刻 [人文科学とコンピュータ]

橋本雄太 (歴博)

・調・コード・音高・スペクトログラムの階層ベイズモデルに基づく多重音解析 [音楽情報科学]

尾島優太 (京大)

・Strummer: インタラクティブなギターコード練習システム [音楽情報科学]

有賀竣哉 (ドワンゴ)

・方向依存活性化関数を用いたDeep Neural Networkに基づく識別的音源定位 [音声言語情報処理]

武田 龍 (阪大)

・カーリングAIに対するモンテカルロ木探索の適用 [ゲーム情報学]

大渡勝己 (東大)

・複数立体スケッチの組み合わせによる空間再構成の試み [エンタテインメントコンピューティング]

友広歩李 (ヤフー)

・サッカーのネタバレが観戦者の態度に及ぼす影響 [エンタテインメントコンピューティング]

白鳥裕士 (明大)

・Towards Unified Model of Spatio-Temporal Mental Orientation: Neurophysiological Correlates of Temporal Reference Point Function

[バイオ情報学]

曾雌崇弘 (Pain Research and Innovation Co., Ltd.)

・大学のプログラミング教育のためのルーブリックの検討 [教育学習支援情報システム]

渡辺博芳 (帝京大)

8. 大会優秀賞・大会奨励賞[第80回全国大会 (2018年3月) 表彰] [第79回全国大会 大会優秀賞・大会奨励賞選定委員会 (2017年7月)]

(1) 大会優秀賞 (10名)

・新居英志 (関西大)

・飯田和佐 (帝京大)

・石沢智士 (岩手県立大)

・伊藤誠悟 (豊田中央研)

・市村 歩 (東京都市大)

・尾崎知伸 (日大)

・川崎慈英 (阪大)

・志垣沙灯子 (和歌山大)

・中野由章 (神戸市立科技高校)・森尾 学 (農工大)

(2) 大会奨励賞 (8名)

・阿部隆幸 (香川大)

・内田直樹 (東大)

・生出真人 (東北大)

・加瀬祐太 (法政大)

・佐藤朋紀 (筑波大)

・鈴木隆二 (青山学院大)

・西川 奏 (釧路公立大)

・藤田正樹 (東工大)

9. 教育賞

[2018年度定時総会 (2018年6月) 表彰] [情報処理教育委員会 (2018年3月)]

(1) 優秀教育賞 (1件)

・江崎修央 (鳥羽商船高専) 「産学連携による地域支援を通じた学生教育」

10. 若手奨励賞 (13件)

[当該コンテストにて表彰] [若手奨励賞選定委員会 (2017年4月~2018年3月)]

<第23回スーパーコンピューティングコンテスト (2017年8月)>

・「solars」

井上 航、窪田秀哉 (北九州工業高等専門学校)

<第28回全国高等専門学校プログラミングコンテスト (2017年10月) 課題部門>

・STEP-スコアブックと連動する動画閲覧システム-

小山紗希、濱口実弓、喜田真吾、中西翔斗、小久保翔生 (鳥羽商船高等専門学校)

<第28回全国高等専門学校プログラミングコンテスト (2017年10月) 自由部門>

・EachTouch

高志克俊、田上大智、竹内貫太、吉田雄作、山崎佑馬 (香川高等専門学校詫間キャンパス)

<第28回全国高等専門学校プログラミングコンテスト(2017年10月)競技部門>

・てんぱ組 和田靖広、高松 健、波多野陸 (東京都立産業技術高等専門学校品川キャンパス)

<ETロボコン2017 プログラミング部門(2017年11月)>

・ぼちぼちぷらす 橋本正治、濱川建人、堀川京介、前田也須子、村上裕之、横山浩平 (京都府立京都高等技術専門学校)

<パソコン甲子園2017 プログラミング部門(2017年11月)>

・大好き、一面の雪 高谷悠太、新居智将 (開成高等学校)
・solars 井上 航、窪田秀哉 (北九州工業高等専門学校)
・Noyashi 大森章裕、木ノ下恭範 (東京都立両国高等学校)

<パソコン甲子園2017 モバイル部門(2017年11月)>

・ULANAND 市川航暉、田中康紀 (鈴鹿工業高等専門学校)

<第17回日本情報オリンピック(2018年3月)>

・米田優峻 (筑波大学附属駒場中学校) ・井上 航 (北九州工業高等専門学校) ・清水郁実 (N高等学校)
・行方浩一 (筑波大学附属駒場高等学校)

11. 学会活動貢献賞/感謝状

[2018年度定時総会(2018年6月)表彰] [総務財務運営委員会(2018年1月)]

- (1) 学会活動貢献賞:「学会誌における編集業務への貢献」(1名)
・辰己丈夫 (放送大)
- (2) 学会活動貢献賞:「論文誌への査読貢献」(3名)
・角 康之 (はこだて未来大) ・福田直樹 (静岡大) ・葛岡英明 (筑波大)
- (3) 学会活動貢献賞:「デジタルプラクティスへの査読貢献」(1名)
・浅井光太郎 (三菱電機)
- (4) 学会活動貢献賞:「第79回全国大会開催への貢献」(1名)
・河口信夫 (名大)
- (5) 学会活動貢献賞:「FIT2017第16回情報科学技術フォーラム開催への貢献」(1名)
・相田 仁 (東大)
- (6) 学会活動貢献賞:「初等中等教育委員会への貢献」(1名)
・和田 勉 (長野大)
- (7) 感謝状:「Samurai Coding2016-17への貢献」(1名)
・塩浜龍志
- (8) 感謝状(1名)
・塚本昌彦 (神戸大)
- (9) 感謝状:「学会誌編集への貢献」(1名)
・藤原 洋 (ブロードバンドタワー)
- (10) 感謝状:「論文誌編集業務への貢献」(5名) *表彰は論文誌編集委員会等
・浅井信吉 (会津大) ・沖野浩二 (富山大) ・関野 樹 (総合地球環境学研)
・田浦健次朗 (東大) ・竹村治雄 (阪大)

12. 支部関係

[各支部総会・支部連合大会等にて表彰] [各支部]

<北海道>

- (1) 研究奨励賞(2名) ・山田恒輝 ・Yifan Chen
- (2) 学術研究賞(1件) ・渡辺哲朗、菅野太郎、古田一雄
- (3) 技術研究賞(1件) ・西川 奏、山内寿代、皆月昭則
- (4) ポスター賞(6名) ・稲船淳也 ・開発拓也 ・千葉達也 ・深川恵輔 ・堀江健太 ・村上弘晃
- (5) 工業高専奨励賞(3名) ・松下将也 ・青地美桜 ・加藤頑馬

<東北>

- (1) 学生奨励賞(15名) ・秋元恭太 ・木村泰嗣 ・新井達也 ・伊藤俊輔 ・渡部雅博 ・渡辺紀文 ・早坂美咲 ・田上 翼
・銭谷英李 ・繁泉宥斗 ・小松秀生 ・川窪涼介 ・佐々木駿斗 ・川和耀太 ・日下部太星
- (2) 奨励賞:5名程度
- (3) 野口研究奨励賞:1名程度

<東海>

(1) 電気関係学会東海支部連合大会奨励賞他受賞者 (7名)

・鳥居拓耶 ・山口達也 ・林 宏輔 ・伊藤大輝 ・田口皓一 ・安達悠太 ・山田賢也

(2) 学生論文奨励賞 (4名)

・大野 健 ・加古将規 ・廣田杏珠 ・山田暁裕

<北陸>

(1) 優秀論文発表賞 (8名)

・清水大貴 ・小沼 遼 ・松吉祐士 ・今井佑輔 ・田中 涼 ・浜崎琢司 ・山下正人
・小島聖哉

(2) 優秀学生表彰 (12名)

・西出和生 ・山本航平 ・大柳慶悟 ・TRUONG Minh Anh ・西尾大地 ・藤澤理央
・岡本航昇 ・若井 惇 ・大豊尚輝 ・内藤優太 ・井端秀典 ・中嶋彩乃

<関西>

(1) 学生奨励賞 (6名)

・柿本大輔 ・吉田直人 ・志垣沙灯子 ・御家雄一 ・中本涼菜 ・高橋ともみ
※ジュニア会員特別賞3名、他支部大会奨励賞21名

<中国>

(1) 優秀論文発表賞 (4名)

・内田啓太 ・坪川友輝 ・伊達大輝 ・青木美帆

(2) 奨励賞 (5名)

・絹田翔平 ・竹本一哉 ・橋田修一 ・國安哲郎 ・山田悠太

<四国>

(1) 学生奨励賞

<九州>

(1) 奨励賞-連合大会 (5名)

・前田洋征 ・中村 將 ・星 宏侑 ・宮本千尋 ・篠岡祐太

(2) 奨励賞-火の国ソサエティ (5名)

・三好亮平 ・青島大河 ・中山経太 ・小田直輝 ・尾ノ上晃

13. 情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館 [第80回全国大会 (2018年3月) 認定] [歴史特別委員会 (2017年12月)]

(1) 情報処理技術遺産 (4件) ※ () 内は製造者、製造年

- ・自己相関係数計算機 (富士通信機製造 (現・富士通)、1954年)
- ・NEAC シリーズ2200モデル700 パッケージ (日本電気、1968年)
- ・NHKコンピューター講座資料一式 (日本放送協会、NHK出版、1969~1976年)
- ・構造化プログラミング言語SPL (日立製作所、1977年他)

(2) 分散コンピュータ博物館 (1件)

- ・日立大みか制御史料室

14. デジタルプラクティス論文賞 (1件5名) [ソフトウェアジャパン2018 (2018年2月) 表彰] [デジタルプラクティス編集委員会 (2017年12月)]

- ・ユニバーサルセンサネットワークと清掃車を活用した藤沢市のスマート化

中澤 仁、陳 寅、米澤拓郎、大越 匡、徳田英幸 (慶大)

15. ソフトウェアジャパンアワード (2名) [ソフトウェアジャパン2018 (2018年2月) 表彰] [技術応用運営委員会 (2017年9月)]

- ・史上初めて人間の名人に勝利した将棋ソフトPonanzaの開発

山本一成 (愛知学院大)

- ・ビッグデータ分析における分散処理ミドルウェア群の開発

古橋貞之 (トレジャーデータ)

16. FIT関連の各賞

(1) FIT2017船井業績賞 (1名) ※船井情報科学振興財団主催 [FIT2017 (2017年9月) 表彰] [FIT船井業績賞選定委員会 (2016年11月)]

- ・池内克史 (東大/マイクロソフトリサーチアジア)

- (2) FIT2017船井ベストペーパー賞 (3件) ※船井情報科学振興財団主催 [FIT2018 (2018年9月) 表彰] [FITフォーラム委員会 (2017年11月)]
- ・アンサンブル学習に着目した画像認識のための 量み込みニューラルネットワーク 武田敦志 (東北学院大)
 - ・レイヤ型Light Field Displayにおけるレイヤ高解像度化の効用 小林優斗、高橋桂太、藤井俊彰 (名大)
 - ・片手親指での日本語入力効率化を図った QWERTY 配列ソフトウェアキーボードの開発 中嶋勇輝、福光正幸 (北海道情報大)
- (3) FIT2017論文賞 (7件) [FIT2018 (2018年9月) 表彰] [FIT賞選定委員会 (2017年11月)]
- ・低ランク最適化のための高速特異値閾値処理の数理 佐々木崇元、北原正樹、清水 淳 (NTT)
 - ・相関時系列データ集合の計算のための高速アルゴリズム 天方大地、原 隆浩 (阪大)
 - ・トランプのシャッフルにおける可視化と最適な組み合わせに関する検討 井手広康、奥田隆史 (愛知県大)
 - ・バイナリパターンの重み付け和による多視点画像の圧縮符号化 小松滉治、高橋桂太、藤井俊彰 (名大)
 - ・反転授業における音声明瞭性を考慮した講義映像作成支援システムの開発 松浦辰雄、大園忠親、新谷虎松 (名工大)
 - ・ウェアラブルセンサーデータを用いた状態推定と順序クラス分類手法に基づく作業者の熱ストレスリスク判定システム 吉田由起子、竹林知善 (富士通研)
 - ・統合リスクマネジメント支援システム「KADAN」の適用評価 ー大規模国際スポーツイベントでの活用ー 小阪尚子、小山 晃、倉 恒子、岸 晃司 (NTT)、丸山公禎、高松幸一 (第8回札幌アジア冬季競技大会組織委員会)
- (4) FIT2017ヤングリサーチャー賞 (7名) [FIT2018 (2018年9月) 表彰] [FIT賞選定委員会 (2017年11月)]
- ・牛込龍太郎 (中央大) ・ 佐藤豊浩 (東京都市大) ・ 山本未来呂 (東京理科大) ・ 大浦 陽 (成蹊大)
 - ・南 昇吾 (東京理科大) ・ 細江美欧 (鳥取大) ・ 白石壮馬 (NEC)

17. 情報規格調査会関連の表彰

- (1) 標準化功績賞 (3名) [情報規格調査会総会 (2017年5月) 表彰] [情報規格調査会]
- ・ 込山俊博 (NEC) ・ 櫻井義人 (日立) ・ 鈴木健司 (東京国際大)
- (2) 標準化顕功賞 (3名) [情報規格調査会総会 (2017年5月) 表彰] [情報規格調査会]
- ・ 中尾好秀 ・ 橋本憲二 ・ 福地 豊
- (3) 標準化貢献賞 (10名) [情報規格調査会総会 (2017年5月) 表彰] [情報規格調査会]
- ・ 青木秀一 (NHK) ・ 石川孝明 (早稲田大) ・ 榎本義彦 (日本IBM) ・ 大橋剛和 (富士通)
 - ・ 河合和哉 (IPA) ・ 岸 知二 (早稲田大) ・ 坂本静生 (NEC) ・ 清水裕子 (東京システムリサーチ)
 - ・ 平林光浩 (ソニー) ・ 前田充 (キヤノン)
- (4) 国際規格開発賞 (14名 : 11件) [情報規格調査会 技術委員会 (2017年4月~2018年3月) 表彰] [情報規格調査会]
- ・ 青木秀一 (NHK) ・ 入江 満 (大阪産業大) ・ 梶原清彦 (NTTテクノクロス) ・ 菅谷寿鴻 (電通大)
 - ・ 北原幸彦 (NRIセキュアテクノロジーズ) ・ 櫻井玄弥 (IPA) ・ 関喜一 (産総研) ・ 妹尾孝憲 (NICT)
 - ・ 谷津行穂 ・ 種田圭吾 (富士通) ・ 中山優紀 (日立ソリューションズ) ・ 野田夏子 (芝浦工大・2件)
 - ・ 増田聡 (日本IBM) ・ 藪田和夫 (3件)
- (5) 工業標準化事業表彰 [工業標準化表彰式 (2017年10月) 表彰] [経済産業省]
- ・ 工業標準化事業表彰 経済産業大臣表彰 : 込山俊博 (NEC)
 - ・ 工業標準化事業表彰 経済産業大臣表彰 : 坂本静生 (NEC)
 - ・ 工業標準化事業表彰 経済産業大臣表彰 : 山田隆弘 (宇宙航空研究開発機構)
 - ・ 国際標準化貢献者表彰 (産業技術環境局長表彰) : 原潤一 (リコー)

その他および附属明細書（法定記載事項）

1. その他、内部統制の整備についての決議に該当はありません。
2. その他、事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。

以上